

平成 29 年度
教育委員会の事務に関する点検・評価報告書
《平成 28 年度実施事業》



天草市教育委員会

は じ め に

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することとなっております。

本報告書は、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、平成28年度の本市教育委員会の所管事務について、点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

<参 考>

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成27年4月1日改正）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I 点検及び評価に関する要領	1P
1 趣 旨	
2 点検評価の対象範囲	
3 点検評価の方法	
4 点検評価員の委嘱	
5 点検評価の手順	
6 点検評価調書の作成	
II 教育委員会の活動状況について	4P
1 教育委員会会議	
2 教育委員の主な活動	
3 附属機関の状況	
4 教育委員会の情報発信	
III 点検評価の結果	7P
① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互いを認め合い、心豊かに生きる子どもの育成	
② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成	
③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習社会の形成	
④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教育行政の推進	
IV 外部点検評価	16P
1 点検評価員	
2 会 議	
3 点検評価員の主な意見	
4 総合評価	
V 今後の方向性	20P
○ 平成29年度 点検評価事業一覧	21P
○ 点検評価調書	23P

I 点検及び評価に関する要領

1 趣 旨

この報告書は、天草市教育委員会の権限に属する事務の平成28年度の管理及び執行の状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条第1項の規定に基づき、点検及び評価を行う。

2 点検評価の対象範囲

点検評価の対象は、地教行法第21条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務のうち、「第2次天草市総合計画」や「天草市教育目標」を達成するための「基本方針」「努力目標」及び「事務事業」とする。

3 点検評価の方法

(1) 内部評価

○「基本方針」、「努力目標」については、事務事業の評価結果や教育環境の変化等から今後の「方向性」を判断する。

○「事務事業」については、その「必要性」、「有効性」等の観点から評価を行い、今後の「方向性」を判断する。

(2) 外部評価

学識経験を有する方から、「基本方針」、「努力目標」及び「事務事業」について意見を聴取する。

4 点検評価員の委嘱

(1)点検評価員の法的根拠 地教行法第26条第2項

(2)点検評価員の数 2人

(3)資格 教育に関し学識経験を有する方で、性別・年齢は問わない。

(4)任期 2年(再任を妨げない)

5 点検評価の手順

点検評価は、次の順により行う。

①内部評価

事務局各課がその所管する事務事業等について、評価を行う。

②外部評価

上記①の内部評価の結果をもとに、点検評価員の意見を聴取する。

③最終評価

上記①及び②の外部評価の結果を踏まえ、教育委員会が最終的な評価を行う。

④議会への報告

教育委員会は、「点検及び評価報告書」を市議会に提出する。

⑤公表

教育委員会は、「点検及び評価報告書」を教育委員会ホームページに掲載し市民に公表する。

6 点検評価調書の作成

(1)「事業名」欄

平成28年度に実施した事務事業名を記載する。

(2)「第2次総合計画施策体系区分」欄

事務事業の上位施策となる第2次総合計画における施策を記載する。

(3)「教育目標」欄及び「基本方針」欄

「天草市教育目標」及びそれを達成するための「基本方針」を記載する。

(4)「目的」欄

事務事業を実施する目的を記載する。

(5)「内容」欄

事務事業の内容を記載する。

(6)「全体計画、概要」欄

平成28年度の「決算額」、評価の「指標名」及びその指標の「目標値」・「実績値」を記載する。

(7)「評価」欄

① 評価項目

評価は、次の項目について行う。

○「上位の施策(目標)への貢献」欄

市が各種の施策を推進する上で基本となる「第1次総合計画」や、教育行政の柱である「教育目標」等の上位計画の達成にどの程度貢献できたか、という観点から評価を行う。

○「市関与の必要性」欄

市が関与する必要性はどの程度か、という観点から評価を行う。

○「達成状況」欄

計画した内容や目標がどの程度達成されたか、という観点から評価を行う。なお、目標値を設定することが困難な事業については、事業(サービス)の充実度に応じた評価を行う。

② 評点

評価は、次の評点により行う。

○「上位の施策(目標)への貢献」欄

4:大いに貢献できた 3:貢献できた 2:少し貢献できなかった 1:ほとんど貢献できなかった

○「市関与の必要性」欄

4:関与の必要性が高い 3:関与の必要性がやや高い 2:関与の必要性はやや低い 1:関与の必要性は低い

○「達成状況」欄

4:達成できた 3:だいたい達成できた 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

(8) 総合評価

上記(7)の評価を踏まえ、総合的な評価を行い、今後の課題等を記載する。

(9) 方向性

上記(8)の総合評価を踏まえ、事務事業の今後の取組みの方向性について、次により記載する。

- 廃止:平成28年度で事務事業を廃止する
- 終了:設定した終期の到来又は事業目的の達成により事務事業を終了する
- 縮小:事業内容、事業量等を縮小して事務事業を継続する
- 見直して継続:他の事務事業との統合や内容を見直して継続する、又は新たに終期を設定して継続する
- 継続:現行の内容で事務事業を継続する
- 拡充:事業内容、事業量等を現行よりも拡充して事務事業を継続する

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況

《教育委員会委員一覧》

平成 29 年 3 月 31 日現在

役職名	氏 名	任 期
委員長	花里 昌直	H27.7.1～H31.6.30
委員長職務代理者	黒鶴 進治	H25.7.1～H29.6.30
委 員	行合 八恵子	H28.7.1～H32.6.30
委 員	木下 えり子	H26.7.1～H30.6.30
委 員	蓑田 えり	H28.7.1～H32.6.30
教育長	石井 二三男	H26.7.1～H30.6.30

※任期は委員としての任期は 4 年 ※委員長の任期は 1 年 ※教育長の任期は 4 年

2 教育委員会会議

会議は原則公開で行い、毎月1回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催し、教育行政の実施に関する事項等の審議を行います。平成28年度においては、定例会を12回、臨時会を4回開催し、議案50件の審議、協議報告33件について審議しました。

市民への積極的な情報提供を行うため、会議を傍聴できることや、会議の日時、場所のホームページへの掲載などを引き続き行います。

なお、平成28年度より教育委員会定例会及び臨時会の会議録をホームページで公開しました。

3 教育委員の主な活動状況

(1) 学校訪問

市内の幼稚園や小・中学校を訪問し、教育課程、学習指導、生徒指導その他専門的事項について指導・助言等を行うとともに、その学校の取り組みや抱えている課題の把握に努めました。この際、教育委員も参加し、校長との意見交換や授業・施設の視察等を行いました。

学校訪問の状況

区 分	対 象	期 日	教育委員の出席状況
幼稚園訪問	3園	平成29年 1月27日～平成29年 2月 1日	延べ 3人
小学校訪問	22校	平成28年 6月23日～平成28年12月 1日	延べ 47人
中学校訪問	13校	平成28年 6月29日～平成28年11月28日	延べ 47人

(2) 研修会への参加

教育委員会では、教育委員会関係団体の行事や研修会に参加し、情報交換や研さんに努めています。平成29年2月8日には、熊本県市町村教育委員研修大会に6名の教育委員(教育長含む)が出席しました。

(3) その他の主な会議や行事

会議・行事名等	期 日	教育委員の出席状況
服務宣誓式	平成28年 4月 4日	6人
入学式・入園式	平成28年 4月	延べ15人
成人式(10地区)	平成28年 8月、29年 1月	延べ14人
研究発表会(小中学校研究指定校8回)	平成28年10月～平成29年 2月	延べ35人
社会を明るくする運動推進大会 教育力活性化推進大会	平成28年 7月9日	6人
退職者感謝状贈呈式	平成29年 3月27日	6人
読書フェスティバル(講演)	平成28年11月13日	3人
卒業式・卒園式	平成29年 3月	延べ15人

3 附属機関の状況

政策等を立案するに当たり、専門的な判断を要する事案等について、各関係者の意見を広く聴取し、様々な角度から議論を行うため、附属機関を設置しています。審議会等の開催状況は次のとおりです。

審議会等の名称	開催回数	主な審議案件
天草市教育振興審議会	5回	第2次教育振興基本計画の策定
天草市奨学生選考委員会	1回	奨学生の選考
天草市就学指導委員会	2回	心身に障害のある児童生徒の就学指導
天草市いじめ防止対策審議会	1回	本市のいじめ問題に係る現状報告、いじめ事案に関する審議
天草市いじめ問題対策連絡協議会	1回	本市のいじめ問題に係る現状報告 いじめ問題に係る情報交換・意見交換
天草市立学校給食センター運営委員会 (各センターごとに設置)	各2回	給食費の決定、給食日数、納入業者の承認管理運営
天草市社会教育委員会議	2回	事業報告、事業計画、運営方針、複合施設の建設
天草市立図書館協議会	2回	事業報告、子ども読書推進指針の策定、複合施設の建設
天草市勤労青少年ホーム運営委員会	2回	事業報告、複合施設の建設

4 教育委員会の情報発信

教育に関する制度や手続等の周知を図るとともに、教育委員会の取組みに関心を持っていただくため、ホームページにおいて市民へ様々な情報を提供しています。

平成28年度においては、教育委員会が主催する大会等の行事については、「市政だより天草」で随時掲載し周知に努めました。また、教育委員会定例会及び臨時会の開催日時、会議録、教育の現状及び課題、施策等についてもホームページで情報の提供を行っています。

Ⅲ 点検評価の結果

天草市教育振興基本計画の「基本方針」「努力目標」に基づく事務事業について評価を行いました。

なお、努力目標に対応する事務事業の評価の具体的内容については、別添の「点検評価調書」を参照してください。

基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互いを認め合い、心豊かに生きる子どもの育成
取り組みと成果	(1) 道徳教育・人権教育の推進 各学校が作成する道徳・人権教育の教育指導計画について全て点検し、学校訪問指導等も活用して、適切かつ確実な授業実践及び日常的な指導について指導・助言ができた。それにより、児童生徒の規範意識の確立、人権を尊重した学級経営・授業づくりに資することができた。 (2) 特別支援教育の推進 平成28年度も、市全体の課題である「移行支援」と「特別支援教育コーディネーターの役割」に焦点を当て、各種研修、会議等を実施した。コーディネーター経験の浅い教職員も、自信を持って自校の推進役を担うことができるようになり、実践への意欲の向上も図ることができた。また、巡回相談員を委嘱できたことで、要望に応じた相談が行われた。それらにより、学校現場における指導者の特別支援教育に対する理解と指導力の向上に繋がった。更には、支援体制について、園・校内での共通理解と実践が図られるようになった。 (3) 環境教育の推進 市内の全小中学校が学校版環境ISOコンクールに参加し、学校の実情に応じ、ゴミの分別や資源の節約等の実践を行うことができた。児童生徒の環境保全に対する意識が一層高まった。 (4) 心の教室相談事業 中学校13校に「心の教室相談員」をそれぞれ1人ずつ配置し、不登校気味の生徒の適応指導や問題行動等に関係する生徒の教育相談等を実施し、問題解決に向けた指導、援助を行った。 (5) 適応指導教室設置事業 教員免許を有する適応指導教室教員2人を配置し、不登校(気味)の生徒に対し、学習指導、教育相談等を実施した。 (6) 教育相談体制の充実 子育て全般及び教育全般において、教育相談員によるカウンセリングや助言指導、研修の実施により、特別支援教育推進、不登校やいじめ対策、幼保小中連携推進、幼児教育等の充実を図ることができた。 (7) スクールバス運行事業 小中学校の統廃合により、遠距離となった児童・生徒の通学手段として、貸切バス49台、貸切ボート1隻を運行(運航)管理業務委託により運行(運航)し、児童・生徒の安心安全な通学環境を維持することができた。
	(1) 小学校施設大規模改造事業 新和小学校屋内運動場大規模改修工事及び佐伊津小学校トイレ改修工事、亀川小学校駐車場整備工事を行った。 併せて、平成29年度以降工事予定の測量設計業務3件を実施した。 (2) 中学校施設大規模改造事業 平成29年度以降工事予定の測量設計業務2件を実施した。

基本方針		① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互いを認め合い、心豊かに生きる子ども育成
取り組みと成果	生涯学習課	(1)家庭教育支援事業 本渡東小学校、大楠小学校に家庭教育支援員を1名ずつ配置し、学校や地域の実情に応じた情報誌の発行・配付、相談体制、家庭教育講話や「親の学びプログラム」の普及等、家庭教育支援を行った。 また、家庭教育支援員2名と社会教育指導員2名が、天草教育事務所社会教育主事等と連携し、小・中学65回、幼稚園、保育所(園)、その他児童館等60回、3歳児及び5歳児健診時51回の計176回と小中学校だけでなく様々な場で家庭教育講話を開催することができた。
評価・課題	学校教育課	(1) 道徳教育・人権教育の推進 心の教育の充実が教育の不易の内容であるので、国の動向も注視した改善及び教育実践を推進する必要がある。また、道徳教育や人権教育については、地域・保護者への啓発が必要であるため、連携や啓発の方法について学校に引き続き指導していく必要がある。 (2) 特別支援教育の推進 経験の浅いコーディネータに対するサポート体制を充実し、全ての学校・園で特別支援教育が一層充実するよう研修の在り方等工夫する必要がある。また、園・学校のニーズに応じる巡回相談員の専門性について引き続き周知徹底を図り、継続した相談ができるような体制づくりを一層進める必要がある。 (3) 環境教育の推進 全ての学校で学校版環境ISOコンクールに参加し実践が進められているが、児童生徒一人一人の環境保全への意識が高まる取組の充実を図る必要がある。また、具体的な数値目標(例:前年比5%削減など)を設定するにあたっては、実態をしっかり把握し無理のない目標となるよう工夫し、児童生徒が自らの活動の成果を実感できるような取組みを工夫する必要がある。 (4) 心の教室相談事業 教師への相談と違って生徒が気軽に相談ができるようになり、生徒及び保護者に安心感やゆとりが生まれ、問題解決への糸口が見出されている。平成28年度には全中学校に配置できた。今後は更に充実した体制で生徒の指導、助言ができるようになる。 (5) 適応指導教室設置事業 不登校を解消し指定の学校に復帰できることが最終目標であるため、それに向けて指導支援を行う必要がある。 (6) 教育相談体制の充実 悩みや不安、問題を抱える保護者や教職員等からのニーズは高い。中でも「ことば」に関する相談が増加傾向にあるが、さらに相談内容に応じて専門の相談員が対応できる相談体制の充実と事業の周知の工夫が必要である。 (7) スクールバス運行事業 スクールバスの運行は、学校統廃合に伴うものであり、今後の学校統廃合計画により、さらに運行路線の増加が見込まれており、保護者及び学校との調整が不可欠である。安心安全かつ円滑な運行を実施するためには、学校、保護者、運行管理受託事業者、教育委員会の連携を密にすることが重要である。

基本方針		① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互いを認め合い、心豊かに生きる子どもの育成
評価・課題	教育総務課	(1) 小学校施設大規模改造事業 数年前から設計が完了し補助金の内示決定分や緊急性がある建物については、計画どおりに事業を実施することができた。 国庫補助金を財源として実施するため、国からの補助決定がなければ当該年度で改修工事ができないことが課題である。 (2) 中学校施設大規模改修事業 平成 29 年度に実施予定工事として、国への予算要求及び緊急性がある建物等の設計業務を 2 件完了することができた。 国庫補助金を財源として実施するため、国からの補助決定がなければ当該年度で改修工事ができないことが課題である。
	生涯学習課	(1) 家庭教育支援事業 講座、講座参加者数とも増えており、幼児期のうちから家庭教育についての重要性を認識することができた。 今後は、保育園の保護者への周知を行い、家庭教育の機会の拡充を図る必要がある。 また、家庭教育支援員は市域が広いため、2 名を配置しているが、次の人材の確保が必要である。 更に、地域学校協働活動の取組と合わせ、学校、地域の実情に合わせた事業を進める必要がある。

	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成
取り組みと成果	学校教育課	(1) グローバル人材育成事業 留学生10人とALT数名が授業に参加し、児童生徒が外国語にふれあう機会を増やすことで、外国語に対する興味、関心を高めるとともに、共通語としての英語の重要性、必要性を学ぶ機会を与えることができた。牛深総合センターにおいては、「Amakusa English Day」を開催し、子どもたちは英語で会話しながら海外の文化に触れることができた。 また、教員の英会話事業に対する理解を深めるとともに、教員の授業スキルの向上に資することができた。 (2) 学校教育研究委員会 平成28年度は、教育課程部会、いじめ不登校部会、英会話科部会の3部会により構成し、それぞれの立場から教育課題解決に向けて取り組んできた。中学校年間指導計画の作成、いじめ・不登校問題への対応、近年増加したSNSを介したトラブルへの対応、平成28年度から全小学校での英会話科実施に向けた研修の実施など、充実した内容となった。これらを通して、学校が抱える諸課題について、その解消を目指した具体的な取組が推進された。 (3) 外国青年教師招致事業 国際化時代に備えた英語教育と国際理解教育の推進を図るため、外国語指導助手11人を配置した。中学校においては生徒の英語に対する興味、関心が高まり、コミュニケーション能力の育成をより図ることができ、小学校では外国語活動等で活用を図った。 (4) 学習指導補助教員の配置 学習指導補助教員は平成28年度には45人を配置し、チームティーチングを実施することで、一人一人の児童生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導を行った。また、安全面に配慮した生活指導においても効果が上がっている。 (5) 読書活動支援事業 学校での読書活動を推進するため、18人の学校司書を巡回方式により配置した。これにより、読書に対する児童生徒の意欲の向上が図られるとともに、図書室の環境整備・蔵書の充実、学習指導への協力等更なる充実が図られた。 (6) 総合的な学習活動支援事業 変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとして、小中学校の自然環境・歴史・伝統・文化等にかかる調査・観察・見学や体験活動などの学習を実施し、学習内容の充実を図った。 (7) 小中学校ICT整備事業 ICT機器を活用した「分かる授業」の実施により「確かな学力」の育成に資するために、パソコン教室のパソコンをデスクトップパソコンからタブレット端末に更新を行った。また、タブレット端末導入校に対して、ICT支援員の配置を行い、教員のICT機器の活用能力の向上に寄与することができた。

基本方針		② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を 培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際 社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成
取 組 み と 成 果	学校教育課	(8) 研究指定校の成果の普及・活用 天草市教育の質の向上を図ることをねらいとして、平成28年度は小学 校3校、中学校2校を研究推進校として指定し、教科等教育、健康教育、心 の教育実践の研究を行った。また、研究推進校の研究成果を他の小中学 校にも普及させるため、午後半日（県の指定と兼ねた本渡南小学校では1 日）の研究発表会を実施した。これらを通して、教員一人一人の資質向上 とスキルアップを図ることができた。
	教育総務課	(1) 離島高校生修学費支援事業 御所浦地区から高等学校等へ進学する際の、交通費（船賃）及び下 宿等経費を69名に対して助成した。 (2) 姉妹都市教育交流事業 平成28年7月29日～8月5日の日程で、エンシニタス市から生徒 3名と引率者1名を受入れた。滞在期間中、教育交流事業として牛深 中学校との交流学习事業を実施し、またホームステイ等を通し、エン シニタス訪問団との交流を深めることができた。 (3) 小・中学校統合推進事業 天草市学校規模適正化（学校統廃合）推進計画に基づき、深海小学 校と久玉小学校の学校統合決定に伴い、学校統合準備委員会（学校職 員、保護者代表で構成）を設置し、校歌・校章・スクールバス等の協 議を行い、牛深東小学校として4月に開校することができた。 本渡東小学校及び有明小学校についても、統合推進協議会及び統合 準備委員会を開催し、平成30年4月の開校を目指し、協議を行った。
	生涯学習課	(1) 成人式 地域の来賓や保護者に見守られながら、自らが成人となることを実感す るとともに社会人としての責任と義務を自覚する機会となっている。ま た、新成人の出席率も84.6%と非常に高い。
	学校給食課	(1) 地産地消の推進 本市の豊かな食材を学校給食に生かしながら、安全・安心でおいしい学 校給食を提供することにより、子どもたちの心身の健全な発達と毎月「食育 の日」設定・推進により、食に関する正しい知識を養うことができた。また、 水産振興課と連携して、「お魚給食の日」を設定し、ヤノイオやシイラを使用 したメニューを提供し、子どもたちに出前講座を実施し、魚への興味を持つ ことができた。またボタンボウフウなど地域で栽培している農産物を積極的 に活用し、地域の振興と活性化に寄与することもできた。ただ、天候不良に より、9月・10月の地元産の農産物はほとんど使用できなかった。 (2) 学校給食施設整備事業 天草市学校給食基本計画に基づき、安定した給食を提供するために、牛 深学校給食センターにボイラーを増設した。これによりボイラーを計画的に 稼働でき、安定した使用が可能となった。

基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成
評価・課題	学校教育課 (1) グローバル人材育成事業 本市における外国語活動をどのように進めることが効果的であるか、ALTの活用方法と併せて検証する必要がある。 (2) 学校教育研究委員会 教育を取り巻く社会の状況が激しく変化している状況に鑑み、重要課題の的確な把握や本研究委員会の組織の在り方等検討していく必要がある。 (3) 外国青年教師招致事業 外国青年を外国語指導助手として市内小・中学校に配置し、生きた外国語の学習、異文化交流を通して語学力の向上と外国語の授業の改善が図られた。また、小学校に巡回訪問することで、児童が外国語に触れ、外国語に親しむことができた。今後は、学校外での取り組みも進める必要がある。 (4) 学習指導補助教員の配置 学習指導補助教員の配置については、各学校からの配置要望が多いため、各学校の状況を十分把握して、優先順位を設け効果的な配置を行う必要がある。 (5) 読書活動支援事業 専門的知識を有する司書の配置により、蔵書分類、図書室のレイアウト等環境整備が充実し、又新刊図書の紹介、本の借り方指導等が徹底され図書室利用の活性化、児童・生徒の読書活動意欲が促進された。また、読み聞かせをしたり、童話発表会の指導・助言を行ったりするなど、専門性を生かした取り組みができています。今後は、学校の統廃合による適正な配置と人員の確保が重要となる。 (6) 総合的な学習活動支援事業 本事業のねらい「児童生徒自らが課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」を達成するため、各学校で計画する学習内容に応じた予算措置が必要である。 (7) 小中学校ICT整備事業 児童生徒のICT機器の活用能力の向上や児童生徒が主体的に学ぶ意欲を引き出す授業づくりができるよう、パソコン整備計画の見直しや教職員のICT機器の操作・活用方法などの研修を検討し、進める必要がある。 (8) 学校訪問の充実 それぞれの学校が抱える教育課題の確実な把握と解消への方策検討、教職員の資質向上等に対応するため、より効果的な訪問の在り方について検討し改善してきたがまだ不十分である。なお一層の改革が必要である。 (9) 研究指定校の成果の普及・活用 市指定教育研究推進校については、指定校が毎年一部地域・学校に偏ることがないよう、配慮を行う必要がある。

基本方針		② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を 培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際 社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成
評価・課題	教育総務課	(1) 離島高校生修学費支援事業 ・本市における教育機会均等の観点から、高等学校等が設置されていない御所浦地区の高校生が、安心して勉学に打ち込める環境を整備することができた。 ・御所浦架橋事業の長期化に伴い、離島から高校に進学する者の保護者の経済的負担を軽減する施策を実施しているが、下宿等費の補助については、御所浦地区以外に居住する保護者との公平性の確保が課題である。 (2) 姉妹都市教育交流事業 エンシニタス市訪問団と異文化体験や交流を深めたことで、相互において意義ある事業となった。しかし、姉妹都市交流として多くの市民に参加・交流を促していくためには、姉妹都市交流事業の担当課である政策企画課と連携を強化する必要がある。 姉妹都市交流は教育交流のみを行っており、事業の中での位置付け、派遣費補助額等について検討を行う必要がある。 また、学校教育課が行っているグローバル人材育成事業との統合を検討する必要がある。 (3) 小・中学校統合推進事業 複式学級の解消と学校規模の適正化により、児童がよりよい教育環境の中で、より効果的な教育が受けられるように、天草市学校規模適正化（学校統廃合）推進計画を進めていかねばならない。 現在までに学校統合により廃校となった跡地については、利活用が課題である。
評価・課題	学校給食課	(1) 地産地消の推進 食材によりばらつきがあり、米は100%の地産地消率であるが、肉類は地場産の価格が高く、市外からの物が多い。野菜等は時期により地元産の食材がないなど、安定した量の確保についても、課題が多い。 今後は、行政として横の連携(農林・水産振興課)を強化し、補助も活用しながら地元特産品の活用を引き続き図るようにする。またボタンボウフウなどの地域で栽培している農産物についても積極的に活用できるようにしていきたい。 (2) 学校給食施設整備事業 天草市学校給食基本計画に基づき、整備が必要な給食センターについては順次整備していく必要がある。

基本方針		③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習社会の形成
取り組みと成果	生涯学習課	●移動図書館事業・読書活動推進事業 移動図書館の利用冊数及び利用者数共に前年度を上回り、利用者数は目標に達しなかったが、利用冊数は目標値に達した。 また、読書活動推進事業では、読書フェスティバルの講師の知名度もあり、昨年を大幅に超える参加があった。 ●生涯学習推進事業・勤労青少年ホーム事業 地区振興会や各種団体等との連携により、地域の特性や要望に応じた講座の開催を行い、市民に多様な学習の機会を提供できた。また、受講後、自主学級に2団体、結成に至るなど自主的な活動につながった。 勤労青少年ホーム事業では、対象年齢を35歳未満から45歳未満に引き上げられたことや公民館と連携した講座を開設したことで、受講生数は増加したが、開設講座数は目標には達していない。
評価・課題	生涯学習課	●移動図書館事業・読書活動推進事業 図書館から遠距離にある地域に居住する市民への利便性と利用者拡大のため、移動図書館での訪問箇所を見直し、内容を充実して継続していく必要がある。 また、テレビやインターネット等の普及により子ども達の活字離れが進んでいるため、今後も家庭、地域、学校及び行政が連携協力して、読書活動を推進していく必要がある。 ●生涯学習推進事業・勤労青少年ホーム事業 生涯学習推進事業については、参加者の年齢層が比較的高齢者が多いため、開催方法やターゲットを定め、様々な年齢層が参加できる取組を行うとともに、市民が学んだ成果を実践できるよう、専門的な学習を提供する取組を行う必要がある。 勤労青少年ホーム事業については、講座内容の見直しや公民館と連携した講座の開設により、更に、広範囲での市民のホーム利用を推進して行く必要がある。 また、法律の改正により、勤労青少年ホームの位置づけがなくなったが、青少年への場の提供など、支援は必要であり、公民館活動と合わせ見直しを行う必要がある。

基本方針		④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教育行政の推進
取り組みと成果	学校教育課	(1) コミュニティスクールの推進に向けた取り組み 本町小学校、五和小中学校に学校運営協議会を置き学校運営等に対し協議する機会を設けている。地域の実情をよく知る学校運営協議会委員により、地域の教育力を積極的に取り入れた学校運営が行われた。児童生徒の豊かな心の育成や学力の向上につなげることができた。 (2) 学校の自己評価 各学校の学校評価の在り方について、できる限り数値目標を設定するなどして、達成状況に客観性が保たれるようになってきた。また、学校便り等を通した保護者、地域への公表も進められた。
	生涯学習課	(1)社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会 社会を明るくする運動については、作文や標語の募集を行い、保護司会と連携して啓発活動に取り組むことができた。また、教育力活性化推進大会は、参加した市民や教育関係者が、それぞれの活動の以後の参考となり、教育意欲の向上につながった。 (2)放課後子ども教室 放課後子ども教室2校については、継続して実施でき、放課後等の子どもの居場所を確保するとともに、遊びや学習機会を提供することができた。 (3)青少年健全育成事業 平成28年度から、市主催事業地域へ移行(実施主体の見直し)するとともに、補助金要綱の見直し(対象、限度額の見直し)を行った。 地域の伝統的事業の体験や歴史学習によりふるさとのよさを再発見することで、ふるさとを愛する子どもたちの育成につながった。また、日常生活では体験することの少ない自然体験や他地域の子どもたちとの異年齢交流、外国文化との交流を行うことにより、感謝の気持ちや思いやりの大切さを感じたり、ふるさとの素晴らしさを知るなど、青少年の健全育成に大きな成果があった。
評価・課題	学校教育課	(1) コミュニティスクールの推進に向けた取り組み 市内全ての小中学校において、コミュニティスクール導入を検討し、地域の教育力を学校経営に活かす取組の充実を図る必要がある。 (2) 学校の自己評価 自己評価した結果を保護者や地域へ広く周知する方法を工夫すると共に、学校関係者評価の結果も踏まえ、自己評価の工夫改善に繋げる必要がある。
	生涯学習課	●社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会 参加した市民や教育関係者にとって、より今後の活動の参考になるような内容を企画しながら継続する。 また、市民が参加しやすいような他のイベント(青少年健全育成フォーラムなど)との調整を図りながら、開催方法の見直しを行う。 ●放課後子ども教室 「放課後児童クラブ」の配置状況や進捗状況を見ながら見直しを含め検討する必要がある。 ●青少年健全育成事業 市民団体等を主体とした青少年育成活動をさらに活性化するために、補助制度の周知に力を入れながら、補助事業を継続する。

IV 外部点検評価

1 点検評価員

(50音順・敬称略)

氏 名	所 属 等
松 尾 博 之	社会教育委員
澤 田 道 夫	熊本県立大学総合管理学部准教授

2 会 議

第1回点検評価員会議

・ 平成29年7月19日(水) 五和農業情報センター マルチメディア室

第2回点検評価員会議

・ 平成29年8月29日(火) 五和農業情報センター マルチメディア室

3 点検評価員の主な意見

①教育総務課所管事業

- ・ 小学校施設大規模改造事業及び中学校施設大規模改造事業について、事業内容に対して指標の設定を検討する必要がある。また、国の補助を受ける場合、事業が実施できなくなる場合があるため、計画的な実施をお願いしたい。
- ・ 離島高校生修学支援事業について、昨年も指摘したとおり、下宿等経費については離島であるないに関わらず、他地区の生徒も下宿等をしており平等性を欠いた制度である。通学補助については補助をする必要があるが、天草島外の高等学校に下宿等をし、通学する生徒については見直しをするのか検討が必要である。
- ・ 姉妹都市教育交流事業について、調書記載のとおり類似事業であるグローバル人材育成事業との統合を検討しながら有意義な事業としていただきたい。
- ・ 小・中学校統合推進事業について、学校規模適正化推進計画に基づいた事業であり、子ども達にとって、より良い教育環境を整備する必要がある。今後は、統合後の学校跡地の活用について検討が必要である。

②学校教育課所管事業

- ・ 道徳教育・人権教育の推進について、情報リテラシーに関しては早い段階からの教育を進めていくことが重要である。子どもたちのスピードに追い付かなければいけないので、教える側の研修会の充実を図る必要がある。
- ・ 天草市特別支援教育総合推進事業について、事業内容と成果指標の達成率がどの様に繋がっているか理解し難いため、指標の設定について検討が必要である。また、事業内容について、市民が見ても関係性が理解できるよう簡潔な表現での記載を要望する。
- ・ 環境教育の推進(環境にやさしい学校づくり)について、校内ISO委員会で学校版環境ISOに取り組まれることは良いことである。コンクールを開催することによって子どもたちの意欲の向上にも繋がるため顕彰の機会をぜひ設けるよう要望する。
- ・ 心の教室相談事業について、学校規模に合った相談員数の配置を検討する必要がある。

また、相談員の確保が難しいと思われるので、教員OBの力を活用する仕組みの構築について検討する必要がある。

- ・ 適応指導教室設置事業について、事業の効果が上がっているにもかかわらず本渡地区以外では実施されていない。他地区にも潜在的なニーズはあると思われるので、要望がないか把握する必要がある。また、事業を拡充した場合、人材確保についての方法を検討する必要がある。
- ・ 教育相談事業について、家庭教育支援事業と類似する部分があるので両事業を上手に活用できるよう連携を図ることも必要である。
- ・ スクールバス運行事業について、運行を事業者へ委託されているとのことであるので、業者への指導等を行い、適正な運行をお願いする。
- ・ グローバル人材育成事業について、京都大学大学院の留学生が講師をされているが、天草市の外国語指導助手だけでこの事業を行うことはできないのか。これからも京都大学に依頼をするのか市の外国語指導助手だけで実施できないのかの検討を行わなければならない。また、県内大学の留学生を活用することも検討して良いのではないのか。
- ・ 学校教育研究委員会について、この事業の指標を設定することは難しい。事業の内容に対する成果が結びつかないため、指標の設定について検討をお願いしたい。
- ・ 外国青年教師招致事業について、小学校でも英語が教科になるということであるが、外国語指導助手が11名で足りるのか検討しなければならない。また、外国語指導助手が活躍できる場の提供をお願いしたい。
- ・ 学習指導補助教員設置事業について、学校からの要望数に対して配置数が不足している。学校からの要望に応えられるよう人員及び予算の確保をお願いしたい。
- ・ 読書活動支援事業について、学校司書が配置されたことにより、図書室の環境整備と図書の本の整備が図られた。今後も学校の図書室の環境がますます整備されることを要望する。
- ・ 総合的な学習活動支援事業について、「ふるさと体験事業」と統合されており、事業の目的に「ふるさと体験事業」についての記載をする必要がある。
- ・ 小中学校ICT整備事業について、この事業はソフト整備ではなくハード整備である。成果指標がパソコンを何台整備した、何校整備したとなり、目標値と実績値が同じになってしまう。ハード整備のみであれば、評価の対象事業となるのか検討をお願いしたい。
- ・ コミュニティ・スクールの推進に向けた取組みについて、熊本県は県版コミュニティ・スクールを推進しており、また、生涯学習所管の地域学校協働本部の活動も始まる。そのため、今後両事業の整合性を図る必要がある。
- ・ 学校の自己評価について、学校の事項評価は法律の規定により行うものである。自己点検を行っているのかいないかについてであれば評価する必要はないように思われる。

③生涯学習課所管事業

- ・ 家庭教育支援事業について、支援員が2名であるとのことであるが、継続していくためには人材確保が必要である。また、地域学校協働活動の取り組みが始まり、地域と学校がより緊密な関係が構築される。地域の中からサポートしてもらう人材を募ることも考えなけれ

ばならない。

- ・ 成人式は、地元に残っている新成人が企画・運営を行うことは良いことである。ただし、地域の同窓会的な式になっているため、地域をまとめたの開催は難しいと思うが、一度合同開催を行い、地区開催と比較検討を行っても良いのではないかと。
- ・ 移動図書館事業について、病院施設等要望がある場所へ巡回し、希望に沿った本を利用者に提供できているため、方向性については、調書記載のとおり「継続」が妥当である。
- ・ 読書活動推進事業について、予算が限られているためいろいろ工夫しなければならないところもある。地域の方々に協力を得ながら継続していただきたい。
- ・ 生涯学習推進事業について、参加者の年齢層が上がっているが、内容・開催時間等の検討が必要である。また、幅広い年齢層を対象に行うと目標値を下回ることもあり、どのようなスタンスで事業を継続していくのか検討が必要である。
- ・ 勤労青少年ホーム事業について、講座は勤労青少年ホームにおいて開催されており、また、対象年齢も45歳未満で対象者が限られている。将来的には複合施設が完成することであり、生涯学習推進事業と統合して勤労青少年を対象とした講座を開催する検討が必要である。
- ・ 社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会について、平成29年度から社会を明るくする運動と教育力活性化推進大会を別開催するとのことである。よって、方向性については、調書記載のとおり「見直して継続」が妥当である。
- ・ 放課後子ども教室について、地域のコーディネーターを確保するのが難しいのではないかと。同様の事業である子育て支援の所管課と連携し、今後の方向性を探っていく必要がある。
- ・ 青少年健全育成事業について、市民団体等が主体として開催する事業への補助を行っている事業であるため、今後、本事業の市関与の必要性について検討をする必要がある。

④学校給食課所管事業

- ・ 地産地消の推進について、天草産の食材について数量・品質等を揃えることは難しいが今後も継続されるよう要望する。子どもたちに産地等を周知しているとのことであるが重要なことであるので、これからも積極的な周知をお願いします。
- ・ 学校給食施設整備事業について、天草市学校給食基本計画に基づき整備を進めて行くとのこと、計画に沿って事業を推進する必要がある。方向性については、記載のとおり「継続」が妥当である。

4 総合評価

松尾博之氏

各事業評価調書は、これまでの点検評価員の方々の指導により十分に精査されてきた。特に各事業項目がより簡潔に分かり易く記入され、初めて調書を読まれる人に対してもより理解しやすくなった。ただし、毎年(point検)評価であるにもかかわらず、調書作成について次年度の担当者に十分な引継がなされておらず、昨年と同様の指摘をしなければならなかったことが残念であった。また、課及び係によって自己評価等に温度差があり、担当者が己の言葉で事業の評価を行っていない課があったことも残念であった。「点検評価は、決して粗探しではなく、それぞれの事業に対し各課がどのように真摯に取り組んできたかの反省を含めて振り返る、自分たちへの通知表であると思う。だからこそ、この一枚の調書に一年間の想いを込めて表現して欲しい」という言葉を前点検評価員の石橋先生が口にされていた。この想いを理解し、行ってきた事業を的確に自己評価しよりよい事業に発展していただきたい。

天草市合併以前の各市町単位の事業が合併 10 年を経過しても継続されている。廃止することが難しい事業もあると思うが、各課もう一度事業内容を検討し、市全体で取り組める事業であれば助け、統合できるものは統合し、課を跨いででも積極的に取り組み事業がグレードアップされるよう要望する。評価調書を作成することにより、毎年反省の下により良い事業となるよう工夫し努力していただきたい。

澤田道夫氏

点検評価の意義は、事業を行うにあたって行政の場合は予算を策定し、予算に基づいて翌年度事業の執行を行う。その事業の中で生じた様々な課題について来年度予算を要求する際に少し修正し、悪い点は改善をして必要だと思われることを加え予算要求をする。その予算が認められれば、次年度新しい予算に基づき施策を実行する。これが行政の基本的なサイクルである。これは少しずつ毎年直していく、少しずつ良くしていくということで、非常に合理的なやり方でもあり、行政の安定性・継続性を担保することもできる点もある。しかし、逆に大きな変更は難しいというデメリットもある。前年度の予算を基に新年度予算を少し修正する、次年度はさらに少しだけ修正し徐々に良くなっていく。逆に少しずつしか良くなれないという予算制度はそのような宿命を背負っている。その中で、事務事業の点検評価がなされている理由が、行政の場合はどうしても内部だけで評価を行うと少し良くなったから良からうと言うことで、どうしてもやり方を大きく変えられない。しかしながら、外部から見る目はもしかしたら全く違うかもしれない。この事業は行政の中では必要と思われるけれども、それが必要なのか外部の人は疑問を持っているかもしれない。また、行政の手法はこうであると説明の中に、もっとこうしたら良いのではないかなどと意見が入ることもある。持っている視点がそれぞれ違うのが一つの重要な点である。外部の視点を取り入れていく必要性は多様性である。ひとりひとりが解決する手法は違うため、新しい気づきが生まれる。外部の点検評価はどちらかと言うと糾弾することではなく、むしろいろいろな人達の知恵を合わせて、もっと良くしていくためには

どうすればよいのかを考える貴重な機会である。外部点検者の意見から新しい気づきを得てもらいたい。

① 点検評価調書の記入方法について

目的や内容については、以前と比較し簡潔で分かり易く記載されていた。全体計画・概要で事業の指標名については、事業内容によって記載する項目の選定が非常に難しいものが見受けられた。今後各課で十分に検討され、最善の指標掲載を望む。また、方向性の部分では、現在６段階で表現されているが、特に見直して継続・継続の部分は積極的な継続と現状のままの継続、消極的な継続などがあり記入の仕方が難しく感じる。よって、総合評価の部分に言葉で、そのニュアンスを伝えられる様に記載した方が良いように思われる。

② 総合評価について

総合評価の市関与の必要性について、事業の目的に対し市がどの様に関わり、どの様な方向性で、どの程度の関与が必要なのかを明確に記載していただきたい。また、全体計画概要の評価数値と整合性のある文章を記載するとともに、「今後の課題」を「今後の課題と方向性」に変更して課題に対する各課の方向性をはっきり記載することが望ましい。

③ 方向性について

方向性は６段階（廃止・終了・縮小・見直して継続・継続・拡充）で表現されているが、特に見直して継続・継続の部分は「積極的な継続」・「現状のまま継続」・「消極的な継続」等工夫し、誰にでも判断しやすい表現方法に改めるなど検討して頂きたい。

V 今後の方向性

- (１) 点検評価員の意見を真摯に受け止め、課を跨いで事業の統合ができるものがあれば、十分検討・協議を行い、今後の教育行政の運営に反映させる。
- (２) 点検評価の結果に基づき、事務事業の今後の取り組みの方向性等の見直しを行い、次年度の予算に反映させる。

平成29年度 点検評価事業一覧

教育目標	基本方針	努力目標	事務事業名		部門
夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり 自然や伝統・文化を大切にし、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互いを認め合い、心豊かに生きる子どもの育成	道徳教育や人権教育を推進し、思いやりや規範意識をもった豊かな感性を育て、心の教育の充実を図る。	1	道徳教育・人権教育の推進	学校教育課
			2	天草市特別支援教育総合推進事業	
			3	環境教育の推進（環境にやさしい学校づくり）	
		教育相談体制を充実するとともに、いじめや不登校、問題行動等の解消及び未然防止に向けた取組を推進する。	4	心の教室相談事業	
			5	適応指導教室設置事業	
		子育て、就学・進学に関すること、特別支援教育に関することなどの教育相談の充実を図る。	6	教育相談事業	
	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成	安全・安心で快適な施設等の整備充実を図る。	7	小学校施設大規模改造事業	教育総務課
			8	中学校施設大規模改造事業	
			9	スクールバス運行事業	学校教育課
		家庭教育力の回復に向けて、保護者等に対する講座の開催や情報の提供を行い、家庭教育の充実と推進を図る。	10	家庭教育支援事業	生涯学習課
		基礎・基本や自ら考える力を身につけさせ、確かな学力の向上に努めるとともに、健康・体力の向上を図る。	11	グローバル人材育成事業	学校教育課
			12	学校教育研究委員会	
			13	外国青年教師招致事業	
			14	学習指導補助教員設置事業	
			15	読書活動支援事業	
			16	総合的な学習活動支援事業	
			17	小中学校ICT整備事業	

平成29年度 点検評価事業一覧

教育目標	基本方針	努力目標	事務事業名		部門
夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり 自然や伝統・文化を大切に、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成	基礎・基本や自ら考える力を身につけさせ、確かな学力の向上に努めるとともに、健康・体力の向上を図る。	18	離島高校生修学費支援事業	教育総務課
			19	姉妹都市教育交流事業	
		教育専門職としての指導力を向上させるとともに、信頼される教職員としての意識改革を図る。	20	学校訪問指導の充実	学校教育課
			21	市指定教育研究推進校補助金	
		安心・安全でおいしい給食の提供に努めるとともに、地産地消を推進する。	22	地産地消の推進	学校給食課
			23	学校給食施設整備事業	
		学校の統廃合による学校規模適正化計画を策定し、教育効果を重視した学校づくりを推進する。	24	小・中学校統合推進事業	教育総務課
		家庭・学校・地域の連携を強化し、青少年教育に携わる指導者の育成や青少年団体の自主活動の支援など地域教育力の向上と青少年の健全育成に努める。	25	成人式	生涯学習課
	③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習社会の形成	図書館は、市民の読書活動を推進するためボランティアの協力を得ながら、地域や家庭に広がっていくよう図書館事業を展開する。また、市民の情報センターとして、多様な要求に応えるとともに、情報を収集・管理し広範な知識や情報の発信に努める。	26	移動図書館事業	
			27	読書活動推進事業	
		公民館や社会教育施設は、住民の最も身近な行政機関として市民と協力し、社会の要請と市民の多様なニーズに対応した学習機会の提供と生涯学習の支援を図る。	28	生涯学習推進事業	
			29	勤労青少年ホーム事業	
	④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教育行政の推進	家庭や地域と連携し、学校を支援する体制づくりを進め、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。	30	コミュニティ・スクールの推進に向けた取組み	学校教育課
			31	学校の自己評価	
		人権に対する正しい認識と理解を深めるための学習の機会を提供し、市民の人権意識の高揚と人権尊重の実践に努める。	32	社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会	生涯学習課
			33	放課後子ども教室	
		家庭・学校・地域の連携を強化し、青少年教育に携わる指導者の育成や青少年団体の自主活動の支援など地域教育力の向上と青少年の健全育成に努める。	34	青少年健全育成事業	

点検評価調書		整理番号	1				
事業名	道徳教育・人権教育の推進			担当課係名	学校教育課 指導係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 道徳の時間を要として、学校教育活動全体を通じて 道徳教育を充実させ、児童生徒の規範意識の醸成や社 会性の向上を図る。また、家庭教育においても子どもた ちの基本的な生活習慣や態度を養い、それぞれの個性 と能力を十分発揮し、互いを認め合い、心豊かに生きる 子どもを育成する。			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	天草市教育目標の努力目標「道徳教育や人権教育を推進し、思いやりや規範意識をもった豊かな 感性を育て、心の教育の充実を図る。」に基づき、学校訪問指導、研究授業への指導を通して、市内 小・中学校の道徳教育・人権教育の一層の充実を図る。						
内 容	○学校訪問時の指導内容 ・関係法規や児童生徒の実態、重点目標が明記された全体計画が作成されているか。 ・各教科、領域等との整合性のある年間指導計画が作成されているか。 ・児童生徒の発達段階に即した系統的な指導計画が作成されているか。 ・「命を大切に作る心を育むプログラム」が計画にそって確実に実践され、記録されているか。 ○授業参観時の指導 ・学習指導案に人権教育の視点が位置づけられているか。 ・人権に配慮した授業が展開されているか。 ・「特別の教科道徳」の趣旨・内容を踏まえた「考える道徳」「議論する道徳」の工夫が実践されてい るか。 ○心のアンケート ・児童生徒の規範意識やいじめ等の実態を把握するために、市内全小中学校を対象とした心のア ンケートを年2回実施。						
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価		
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	実施学校数	校	目標値	35			
			実績値	35			
				目標値		4	4
実績値							
総合評価	○上位施策への貢献 心豊かに生きる子どもの育成に貢献している。 ○市関与の必要性 豊かな心を育み人権感覚をもつ人の育成は、地域住民、保護者の願いであり、 よって市が関与する必要がある。 ○達成状況 学校訪問において、すべての小中学校で道徳の授業を必ず1コマ以上は実践する ように依頼し、参観および指導を行った。学校訪問7日前には、各学校から道徳教 育・人権教育の教育指導計画を提出させ、全体計画・年間指導計画の整合性、各 学級の実践状況等を確認している。全校への毎年の指導により各学校の人権教 育、道徳教育の現状が改善されている。また、授業指導では、各種計画との整合を 確認しながら視点を踏まえた指導について、分科会で直接授業者に伝え、その後反 省・指導として文書で提出することになっている。このように、学校訪問全体をとし て、道徳教育・人権教育の推進が図られるよう指導を行っている。 ○今後の課題 携帯電話、スマートフォンの普及により、SNS利用時のトラブルが後を絶たない状 況にある。今後の方向性としては、児童生徒に対する情報モラル教育の充実に加え てPTA研修や学年学級懇談会での保護者向け研修会の実施を積極的に進めてい くこととして継続としたい。					方向性	継続

点検評価調書		整理番号	2					
事業名	天草市特別支援教育総合推進事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	現在、各保育所・園、幼稚園、学校において特性のある子どもについての保育・教育についての課題が多く見られる。社会の変化や子どもの障がいの重度・重複化、多様化に対応し、発達障害を含む障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子どもの一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や支援の実施に向けて、幼稚園・保育所(園)・学校・教育委員会・学識経験者・関係機関・保護者等の関係者からなる天草市特別支援教育連携協議会及び中学校区ごとの地区連携協議会を(13区)を設置し、天草市の特別支援教育の総合的な支援体制の整備及び特別支援教育の推進を図る。							
内 容	本事業は教育長を会長とする天草市特別支援教育連携協議会を中心としながら13の中学校区における地区の連携協議会を土台として進めている事業である。市の事業の趣旨を推進会議ですべての地区に周知しながら、夏季の教職員を対象としたコーディネーター研修会や実務担当者会議及び巡回相談から進めている事業である。それらの実施を通して幼稚園・保育所(園)・学校における特別支援教育の体制整備を推進し、各組織の中での指導者の専門性の向上を目指している。 推進会議(年2回実施)では、本年度の事業全体の計画、取組について協議・評価を行い、取組の改善につなげる。また、実務担当者会議(年4回実施)では、コーディネーター研修及び推進会議に向けての協議を行い、各会議・研修の充実を図る。各会議においては、各園・学校の実態把握とともに、今日的な課題等も取り入れ、内容を充実させる。各研修においては、前年度の評価反省をもとに、研修テーマや内容を変更し、本事業の目的達成に向けた研修を行う。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	258 (一般 258)	推進会議(2回) 実務担当者会(4回) コーディネーター研修会(1回) (会議実施回数/会議予定回数)	回	目標値	7			
				実績値	7			
		巡回相談達成率 (相談実件数/希望相談件数)	件	目標値	68			
		実績値	68					
4	4	4						
総合評価	○上位施策への貢献 多様な個性や能力を十分に発揮できるインクルーシブ社会の構築を目指し、互いを認め合い、心豊かに生きる子どもの育成に貢献している。 ○市関与の必要性 関係各課、保育所・園、幼稚園、学校との連携を深め、児童生徒、保護者、園・学校のニーズに応じた適切な支援体制の充実のため、関与する必要がある。 ○達成状況 本事業の中で最も大きな研修会である天草市特別支援教育コーディネーター研修会では、各学校のコーディネーターをはじめ、特別支援教育に携わっているコーディネーター以外の教員も参加し、175人(前年度比170%)の参加者があった。「義務教育の入り口から出口まで」というテーマのもと、つながりのある支援体制について実践発表や熱心な協議が行われた。また、本事業のもう一つの柱である巡回相談事業についても、28年度は68件の相談希望があり、68件すべて実施することができた。 ○今後の課題 平成19年度に本事業が始まり10年になる。幼保小中高へとつながりのある支援体制の充実が図られてきた。方向性は引き続き積極的な取組として継続としたい。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	3						
事業名		環境教育の推進(環境にやさしい学校づくり)			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化している。そのような中、児童・生徒が、環境や環境問題に関心をもち、主体的に環境保全活動に取り組んでいくことは未来を担う児童生徒にとって大変重要であり、様々な教育活動との関連を図りながら、持続可能な社会の構築をめざして環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技能や態度を育成する。							
内 容		各学校における環境教育の充実を目指し、様々な教育活動との関連を図りながら、児童・生徒が自ら考え行動し、環境にやさしい学校づくりのための学校版環境ISOに取り組む。また、学校で取り組んだことを、家庭や地域でも実践できるよう普及啓発に努める。 具体的には、校内ISO委員会を中心とした児童生徒の主体的な活動のもとで、宣言項目の決定、行動計画の作成、そして、実践、見直しといったPDCAの取組みを進める。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等			指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
			実施学校数	校	目標値	35			
					実績値	35			
						目標値			
実績値									
総 合 評 価		○上位施策への貢献 持続可能な社会づくりは人類存続にとっての喫緊の課題である。さまざまな視点から環境教育にアプローチすることにより、児童生徒の主体的な活動の促進に寄与できると考える。郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会で活躍する人材育成を今後も目指していく。 ○市関与の必要性 環境問題の取組は、世界全体での取組でもあり、市関与の必要性は極めて高い。 ○達成状況 県の学校版環境ISOコンクールの事業は28年度で終了した。しかし、各学校においては、引き続き、生徒会や児童会を中心に環境環境ISOに取り組んできた。水の節約、ごみの排出量の節約など各学校でアイデアを出して取り組んでおり、児童・生徒の環境保全に対する意識が高まっている。 ○今後の課題 コンクール終了後も各学校において環境ISOへの取り組みが根付いており、取組が継続されている。学校訪問における教育計画の点検では、各学校において環境教育全体計画や指導計画もしっかりと立てられており、生徒会、児童会の委員会活動を中心に環境ISOの活動が定着していることが伺える。方向性については、今後も継続することとしたい。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	4					
事業名	心の教室相談事業			担当課係名	学校教育課 教務2係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	中学校の生徒が悩みを気軽に話し、ストレスを少しでも和らげることのできるような環境を提供する ため、各中学校の相談室に「心の教室相談員」を各1名配置し、悩みを抱える生徒の相談に対して、 問題解決に向けた指導、助言を行い、生徒の心のケアにあたる。							
内 容	[心の教室相談員] (配置校) 本渡中1名、本渡東中1名、稜南中1名、牛深中1名、牛深東中1名、有明中1名、 御所浦中1名、倉岳中1名、栖本中1名、新和中1名、五和中1名、天草中1名、 河浦中1名 計13名配置 (業務内容) ① 教育相談 ② 相談室登校への対応 ③ 保護者との連携推進 (報酬) 1時間当たり 1,000円 ※週20時間以内							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	9,900 (一般 9,900)	相談件数	件	目標値				
				実績値	6,547			
		相談員設置校数	校	目標値	13	4	4	4
		実績値	13					
総 合 評 価	○上位施策への貢献 いじめ・不登校問題の解決及びその未然防止に寄与している。 ○市関与の必要性 義務教育期間であり、人間形成の重要な時期である思春期の生徒に対す る心のケアを図るため、市が積極的に関与する必要がある。 ○達成状況 平成27年度末には配置11校、未配置校2校であったが、平成28年度当 初に牛深東中に、平成28年5月に栖本中に配置できたため、全中学校に配 置できた。 ○今後の課題 相談員の情報交換を含めた研修会等を更に充実させ質の向上を図り、子 どもたちの悩みなどに対して的確なアドバイスができるようにするなどの支 援に努め、積極的に継続していく。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	5				
事業名	適応指導教室設置事業			担当課係名	学校教育課 教務2係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	天草市勤労青少年ホームの一室に適応指導教室「カワセミ学級」を設置し、心理的又は情緒的理 由により登校できない状態にある市内中学校生徒に対して、「引きこもり」の防止、学校復帰を目的と した指導及び援助を行う。						
内 容	教員免許を有する適応指導教室教員2名を配置し、不登校(気味)の生徒に対し、学習指導、教育 相談等を実施している。 [開級日] 学校授業日のうち月曜日から金曜日 [学級時間割] 朝の会 10:00～ (学習・給食) 帰りの会 15:00						
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価		
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	4,900 (一般 4,900)	通級生徒数 (うち学校へ復帰した生徒数)	人	目標値			
				実績値	11 (4)		
				目標値		4	4
		実績値					
総 合 評 価	○上位施策への貢献 それぞれの理由により、学校に登校できない子供たちに教育を受ける機会を別に 提供する事業として、その存在意義は大きい。 ○市関与の必要性 通級する生徒は義務教育期間であるため、不登校の解消に関与する必要がある。 る。 ○達成状況 平成28年度は、10人の通級者と、1人の体験者の合計11人の在籍があった。こ のうち、3年生3人については、途中で本校に復帰し、全日制の高校へ2名、私立高 校へ1名が進学した。(本校に復帰した生徒は、2年生1名・3年生3名である。)残り 4人の3年生は、カワセミ学級に在籍しながら高校受験あるいは就職の準備を行 い、全日制高校、通信制高校、定時制高校に各1人ずつ進学し、1人が就職するこ とができた。このように、事業の目的を十分達成することができている。 ○今後の課題 カワセミ学級の目標は、就学すべき学校への復帰である。そのためには、不登校 となった原因を当該生徒や保護者とともに明らかにし、課題解決のための心のケア の充実、専門機関とのより効果的な連携が必要である。また、生活リズムが乱れが ちなためそれを整える生活支援が必要である。その上で、将来の目標に向かった学 習能力の確立など、今後も指導・支援を行う必要がある。 方向性については、当該学級は本渡地区にあるため、他の地区においても同様 の教室が必要ではないか、検討しながら継続することとしたい。					方向性	継続

点検評価調書		整理番号	6						
事業名		教育相談事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		教育相談員（教育相談カウンセラー、教育指導アドバイザー）を配置し、子育ての悩み・不安・ストレス等を持つ就学前幼児の保護者及び、小・中学校の児童・生徒やその保護者を対象にした相談活動を充実させ、保護者の子育てを支援する。 また、必要に応じて教職員の悩みや学校での諸問題についての相談を実施し、解決に向けてサポートする。							
内 容		教育相談カウンセラー（臨床心理士・言語聴覚士等）は要請のあった園、学校に出向きカウンセリングを実施。助言指導や情報の提供を行う。また、教職員等の研修講師や保護者講話等も行う。教育指導アドバイザーは相談のほか教育全般への指導助言を実施。 ○教育指導アドバイザー 1名 ○臨床心理士 3名（内2名は言語聴覚士の資格も保有） ○言語聴覚士 3名（内2名は臨床心理士の資格も保有） ○作業療法士 1名							
・全体計画、概要 （平成28年度） ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等		決算額	指標：成果、活動の対象となるもの				評 価		
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
		4,025 (一般 4,025)	教育相談日数	日	目標値	72			
					実績値	66			
			カウンセリング件数	件	目標値	-	4	4	4
					実績値	149			
総 合 評 価		○上位施策への貢献 悩みを持つ方々の不安やストレスを和らげたり、悩み等の解消に向けた相談活動を充実させることにより、心豊かに生きる子どもの育成に貢献している。 ○市関与の必要性 子育て全般（子どもの発達や不登校等）や特別支援教育等で不安を抱える保護者、また関係教職員からの幅広いニーズに対応した相談体制のさらなる充実のため、市が関与する必要性がある。 ○達成状況 就学前の幼児から小中学校の児童生徒の健全な育成を図るため、カウンセラーによる専門的なカウンセリングや指導助言はとても有効であり、目的達成度は高い。5名のカウンセラーで延べ72日の相談日数を予定していたが、1名が病気療養により9日分相談中止となり、うち3日は別カウンセラーが対応したが、当初予定から6日少ない66日の実績となった。 ○今後の課題 幼保小中それぞれの園や学校から、申し込みがあった151件について、すべて年度内の対応を目指していたが、2件ほど日程調整がうまくいかず29年度に繰り越した状況である家庭生活や家庭での支援の在り方についての相談が増えてきており、本事業へのニーズは高まってきている。方向性については引き続き継続としたい。							
		方向性		継続					

点検評価調書		整理番号	7					
事業名	小学校施設大規模改造事業				担当課係名	教育総務課 施設係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	教育を支える環境づくりの推進		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	学校施設は、児童が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の緊急避難 場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。築25年以上経過した建 物について、建物全体を改造する工事を行い、教育環境の改善を図ることで、学校教育の円滑な実 施と建物の耐久性を確保する。							
内 容	<屋内運動場の大規模改修工事及びトイレ改修工事、平成29年度以降工事測量設計委託> ●総事業費 74,635千円 ●事業内容 ・測量設計委託料 4,531千円(本渡南小学校・新和小学校トイレ改修設計、倉岳小学校グラウンド 測量設計 3件) ・佐伊津小学校トイレ改修工事 21,402千円 ・亀川小学校駐車場整備工事 15,430千円 H28年度計 41,363千円 ・新和小学校屋内運動場大規模改修工事 32,986千円(建築、機械設備、電気設備 3件) ・備品購入費 286千円(移動式バスケットボード) H27年度繰越計 33,272千円 合計 74,635千円							
・全体計画、概 要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	74,635 国(8,266) 一般(66,369)	整備件数	件	目標値	3			
				実績値	3			
		測量設計委託件数	件	目標値	3	4	4	4
				実績値	3			
総合評価	○上位施策への貢献 教育環境の整った施設で学習することは、学校教育を進めるうえで重要で ある。 ○市関与の必要性 市立学校の整備であり、安全な学校を整備する必要がある。 ○達成状況 測量設計及び改修等整備については、計画どおり達成できた。 ○今後の課題 定期点検の結果等を踏まえながら老朽化している施設の状況を把握し、計 画的に実施していく必要がある。 国庫補助金を財源として実施するため、国からの補助決定がなければ当該 年度で改修工事が実施できないことが課題である。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	8					
事業名	中学校施設大規模改造事業				担当課係名	教育総務課 施設係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	教育を支える環境づくりの推進	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	学校施設は、生徒が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の緊急避難 場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。築25年以上経過した建 物について建物全体を改造する工事を行い、教育環境の改善を図ることで、学校教育の円滑な実施 と建物の耐久性を確保する。							
内 容	当該事業は、国庫補助金の交付を受けて事業実施することになる。この事業費把握のため、測量設 計等の事業委託を行うものである。 ＜平成29年度以降工事測量設計委託＞ ●総事業費 4,374千円 ●事業内容 ・牛深中学校プール改築設計 2,430千円 ・牛深東中学校グラウンド測量設計 1,944千円 計 4,374千円							
・全体計画、概 要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	4,374	整備件数	件	目標値	2			
				実績値	0			
	一般(4,374)	測量設計委託件数	件	目標値	2	4	4	3
				実績値	2			
総合評価	○上位施策への貢献 教育環境の整った施設で学習することは、学校教育を進めるうえで重要で ある。 ○市関与の必要性 市立学校の整備であり、安全な学校を整備する必要がある。 ○達成状況 補助申請及び緊急性がある建物の改修工事を行うための設計業務のみを 実施した。なお、財源が確保できなかったため、改修工事は実施できなかつ た。 ○今後の課題 定期点検の結果等を踏まえながら老朽化している施設の状況を把握し、計 画的に実施していく必要がある。 国庫補助金を財源として実施するため、国からの補助決定がなければ当該 年度で改修工事が実施できないことが課題である。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	9						
事業名		スクールバス運行事業			担当課係名	学校教育課 教務1係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	教育を支える環境づくりの推進	
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		小・中学校の統合で通学距離が遠距離となった児童・生徒の安全かつ安心な通学手段の確保する ため、スクールバス(ボート)を運行(航)する。							
内 容		スクールバス・スクールボートの運行(航)管理業務委託事業(平成28年度末) 【本渡】小学校3台(うち市有1台) 中学校1台 【牛深】小・中学校9台(うち市有1台) 【有明】小学校1台 中学校2台 【御所浦】小学校3台(うちタクシー1台)小・中学校1隻 【倉岳】小学校2台 【栖本】小学校1台 【新和】小学校4台 【五和】小学校7台 中学校5台 【天草】小学校3台 中学校2台 【河浦】小学校4台 中学校2台 計 スクールバス49台(うち市有2台、タクシー1台) スクールボート1隻							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの				評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
	398,673 (国庫補助金 79,796) (一般 318,877)	スクールバス運行校	校	目標値	21				
				実績値	21				
		乗車人数	人	目標値	1,207	4	4	4	
				実績値	1,207				
総合評価		○上位施策への貢献 学校統廃合に伴う遠距離通学者の通学手段として、貢献度の高い事業である。 ○市関与の必要性 天草市立学校のスクールバスであり、市の関与は必要である。 ○達成状況 深海小学校・久玉小学校の学校統合にあたり、平成29年度からの運行路線等の調整を行うとともに、運行(運航)する全ての路線において遠距離通学者の交通手段として安心安全な通学環境を確保することができた。 ○今後の課題 平成29年度においても、学校の統廃合により新たな需要が見込まれ、運行台数の増数による予算の拡大に繋がる可能性がある。また、「スクールバスは教育に関するものである」との位置づけを踏まえ、事業者及び運転手に対し児童生徒への対応等の指導を行い、常に安心で安全な運行に努める必要がある。方向性については、30年度までは学校統合を行うため、拡充して取り組みたい。						方向性	拡充

点検評価調査		整理番号	10					
事業名	家庭教育支援事業				担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実	施策計画	生涯学習の推進		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	① 家庭を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や 態度を養い、それぞれの個性と能力を十分発揮し、互い を認め合い、心豊かに生きる子どもの育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	学校・地域の実情に応じた家庭教育に関する支援体制づくりや学習機会の提供等を行う家庭教育支 援員を市内の小学校に配置することで、きめ細かな家庭教育支援を行うとともに、子育てやしつけ又は 思春期の子どもが抱える悩みや問題等を通じて家庭教育のあり方を見直す機会を提供し、家庭にお ける教育力の再生を図ることを目的とする。							
内 容	○本渡東小学校、大楠小学校に家庭教育支援員を1名ずつ配置し、学校や地域の実情に応じて、 家庭教育支援に関する業務を行う。 ・情報紙の発行・配付 ・相談体制づくりや対応(学校及び家庭) ・家庭教育講話や「親の学びプログラム」の普及等の学習機会の提供 ※「親の学びプログラム」とは、子育てのポイントを身近な話題から楽しく学んでもらうために開発 された参加体験型(参加者同士の話し合いや振り返り)の学習スタイルである。 ○各小中学校の就学時健診、PTA行事や3歳児・5歳児健診等の際、家庭教育に関する講座を 開催した。 ・実施回数176回(小学校53回、中学12回、幼稚園7回、保育所(園)7回、3・5歳児健診51回、 その他児童館等46回) ・延べ参加者数 5,442人							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	1,065 (県支出金 700) (一般 365)	家庭教育講座開催数	回	目標値	82			
				実績値	176			
		家庭教育講座参加者数	人	目標値	2,595	4	4	4
				実績値	5,442			
総合評価	○上位施策への貢献 子育てにおける家庭教育の重要性を再認識する機会を設け、家庭教育力の向上を 図ることができる。 ○市関与の必要性 家庭教育力・地域教育力の低下が懸念されており、家庭教育のあり方を見直す機 会や学習機会の提供等の支援を行っていく必要がある。 ○達成状況 本渡東小学校、大楠小学校に家庭教育支援員を1名ずつ配置し、学校や地域の実 情に応じた情報誌の発行・配付、相談体制、家庭教育講話や「親の学びプログラム」の 普及等、家庭教育支援を行った。 また、家庭教育支援員2名と社会教育指導員2名が、天草教育事務所社会教育主事 等と連携し、小中学校だけでなく、様々な場で家庭教育講話を開催することができ、講 座、講座参加者数とも増えており、幼児期のうちから家庭教育についての重要性を認 識することができた。 ○今後の課題 保育園の保護者への周知を行い、家庭教育の機会の拡充を図る必要がある。 家庭教育支援員は市域が広いため、2名を配置しているが、次の人材の確保が必 要である。 また、地域学校協働活動の取組と合わせ、学校、地域の実情に合わせた事業を進 める必要がある。よって、見直して継続したい。						方向性	見直し て継続

点検評価調書		整理番号	11						
事業名		グローバル人材育成事業			担当課係名	学校教育課 教務2係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		さまざまな国の出身者(外国人)と児童・生徒が、伝統・文化・自然・歴史等の地域資源(宝)を共に 学び、会話を通してお互いの文化や言語の理解を深めることにより、積極的にコミュニケーションを図 ろうとする態度やコミュニケーション能力の育成を図る。							
内 容		【内容】 グループワークを通じて、互いの文化や言葉の違いを理解し合う。プログラム中のコミュニケーション は、原則として英語を使用する。 【講師陣】 京都大学経営管理大学院留学生、天草市外国語指導助手 【実施内容】 本渡東中学校:平成28年9月2日 参加生徒:全生徒 五和小学校・五和中学校:平成28年9月5日 参加児童:全児童・生徒 天草EnglishDay(牛深総合センター) 参加児童生徒:申込者約100人							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等		決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価			
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
		1,481 (一般 1,481)	本事業を楽しんでいる児 童の割合	%	目標値	85			
					実績値	99.4			
					%	目標値		4	4
実績値									
総 合 評 価		○上位政策への貢献 国際社会に生きる心身ともに健康な人材の育成に貢献している。 ○市関与の必要性 児童生徒の多様な人種や文化、言語等の理解を深め、グローバル化に対 応した人材育成や地域づくりを推進するためには、市の関与は必要である。 ○達成状況 参加した児童生徒のアンケート結果では、99%の児童が「楽しかった」と回 答しているなど、児童生徒の外国語に対する興味・関心の向上、コミュニケー ション能力の育成が図られるとともに教員・ALTの授業スキルのアップ等の 成果を得た。 ○今後の課題 児童生徒一人ひとりが外国語にふれる機会を増やすことで外国語への関 心が高まっている。しかし、天草市の外国語指導助手だけで実施できる事業 にできないか検討する必要があるため方向性としては、見直して継続とし たい。						方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	12					
事業名	学校教育研究委員会				担当課係名	学校教育課 指導係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	市内幼稚園、小中学校の実態に応じた課題に対応するため、よりよい教育実践のための資料の作 成や、いじめ不登校問題を中心とした生徒指導上の諸問題に対する共通理解と実践化を図るための 会議を開催したりすることを通して、児童生徒の学力向上と、心豊かで充実した園・学校生活の確保 を図る。							
内 容	「ICT活用指導力向上に関すること」、「小学校の英会話科に関すること」、「いじめ不登校問題に関 すること」、「学校経営に関すること」の4つの課題に対して、それぞれ専門部を置き、調査・研究を進 める。 ＜ICT教育部会＞ ICT活用に向けた研修会を開催し、ICTの効果的な活用について専門の講師を招聘する。 ＜英会話科部会＞ 平成28年度から市内の全小学校で「英会話科」を実施するにあたり、本部会では、教材の整備や 指導法の工夫改善に資する研究を行い、市内22小学校への情報提供等を行っていく。 ＜いじめ不登校問題部会＞ 本市において6月と12月に実施する「心のアンケート」の集計、結果分析を行い、各学校に情報提 供を行うと共に、いじめ・不登校の未然防止や早期発見・早期対応に資する。また、近年増加している SNS問題についての調査・結果分析・情報提供も併せて行う。 ＜学校経営部会＞ 教頭・主幹教諭研修会や各種研修会等を企画・運営したり、先進校等の視察研修の実施したりし て、天草市教育活動の課題改善を目指していく。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	1,185 (一般 1,185)	いじめ不登校問題への天 草市の実態と分析の資料 作成回数(9月、2月に年2 回)	回	目標値	2			
				実績値	2			
		英会話科研修会の年10回 の実施回数	回	目標値	10	4	4	4
				実績値	10			
総 合 評 価	○上位施策への貢献 中学校用教科年間指導計画の作成や英会話科の充実、いじめ・不登校問題に対する各 学校への情報提供により、学力向上、グローバル人材の育成及び心豊かに生きる人づくりに 貢献した。 ○市関与の必要性 天草の子供たちが、将来に夢や希望をもち、それを達成するために必要な「確かな学力」 や「豊かな心」を身につけさせることは、学校の責務であり、市の関与は必要である。 ○達成状況 学校経営部会における先進校視察、英会話科についても、指導計画の見直しや教職員 研修の充実、いじめ不登校部会における心のアンケートの分析、ICT部会における職員研 修会の実施など、すべての部会で具体的な取組が行えた。 ○今後の課題 新学習指導要領では、小学校における外国語教育も正式に教科として導入されることが 決まっている。本市においては、教育課程特例校の指定を受け、平成28年度からすべ ての小学校において、教科として英会話を実施しており、これまで英語教育を行ってこなかつ た小学校教員の負担とならないよう、授業の進め方等の具体的な研修会を実施し、充実さ せることは急務である。また、インターネットを介したいじめやトラブルは依然として生徒 指導上の大きな課題であり、携帯電話やスマートフォンの所持率、いじめの件数等の調査を 行い、最新の実態の把握に努めている。不登校の増加と併せて、各学校への指導・助言を 一層充実させる必要がある。方向性については、調査・研究内容の充実を図りながら継続 することとしたい。また、タブレットPCの導入が進む中、教職員の負担軽減に向けてもICT 研修を継続させていく必要がある。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	13					
事業名		外国青年教師招致事業			担当課係名	学校教育課 教務2係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	生きた外国語を市内小・中学生に学習させるため、外国語指導助手11人を市内小・中学校に巡回 方式で配置し、語学指導等を行い、国際交流・異文化交流を推進する。 小学校5・6年生において外国語活動が必修となっており、定期的に小学校への巡回も行い、生き た外国語に触れる良い機会となっている。							
内 容	外国語指導助手11人を市内小・中学校に巡回方式で配置し担任教諭とのチーム・ティーチングに より語学指導等を行う。地域においては、社会教育、地域行事へのボランティア参加を促し国際交 流・異文化交流の推進を図っている。牛深ハイヤ祭り、下田温泉お湯かけ女神輿、新和町の泥りん ピック等に参加して地域の行事を盛り上げている。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	52,653 (一般 52,653)	外国語指導助手人数	人	目標値	11			
				実績値	11			
				目標値		4	4	4
				実績値				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 生きる力の基礎となる「確かな学力」の育成に貢献している。 ○市関与の必要性 学校教育において「生きた英語」を学ばせる機会を与えるため、関与する 必要がある。 ○達成状況 外国語指導助手の担当校の見直しを更に行い、学校間及び外国語指導助 手間にあった授業数の差の解消につなげた。また、外国語指導助手向けの 研修を実施し、共通の教材を製作したり、情報を共有するなどして、外国語指 導助手の学校現場における不安解消にもつながった。異文化体験イベント 「AmakusaEnglishDay」を開催し、学校だけでなく地域での交流にも取り組むこ とができた。 ○今後の課題 方向性については、市が主体的に行う幼稚園・小中学校における「英会話 科」の取り組みになくてはならない存在のためこのまま継続することとしたい。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	14							
事業名		学習指導補助教員設置事業			担当課係名	学校教育課 教務2係				
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成					
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		小学校及び中学校においてチーム・ティーチング等きめ細やかな指導を行うことにより、児童・生徒の発達段階に応じた学校教育の実現を図るために、小・中学校の教員免許状または養護教諭の免許状を持つ者を補助教員として配置を行うものである。								
内 容		配置基準及び配置人員 (1) 小学校1学年、2学年に31人以上の学級で特に配慮を要する学校 ・平成26年度 4校 7人 ・平成27年度 2校 5人 ・平成28年度 2校 5人 (2) 発達障害等特に配慮を要する学校 ・平成26年度 23校 34人 ・平成27年度 24校 36人 ・平成28年度 26校 36人 (3) 複式学級がある学校 ・平成26年度 3校 3人 ・平成27年度 3校 3人 ・平成28年度 4校 4人								
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等		決算額	指標：成果、活動の対象となるもの				評 価			
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
		105,784 (一般 105,784)	学習指導補助教員の 配置数(年度末時点)	人	目標値	50				
					実績値	45				
						目標値		4	4	3
						実績値				
総 合 評 価		○上位施策への貢献 子供たちの学習能力の向上が図られ、地域を担う人づくりに貢献できた。 ○市関与の必要性 支援を必要とする子どもたちは、年々多くなっている傾向にあり、きめ細やかな教育の更なる充実策として、市単独で実施しているため、その関与性は高い。 ○達成状況 予算要求した人員数は、学校の状況を把握し、人材を探しながら配置することができた。しかしながら、学校からの要望は非常に多く、要望人員をすべて配置することは予算的にできなかった。 ○今後の課題 予算面の問題もあり、真に配置が必要な学校の選定が重要である。また、学習指導補助教員を配置してほしいという学校の要望は多く、身体的又は心の支援を必要とする子どもたちのためにその要望に応えられるようにしていきたい。方向性については、拡充することとしたい。								

点検評価調書	整理番号	15
--------	------	----

事業名	読書活動支援事業				担当課係名	学校教育課 教務2係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	学校教育において、児童の豊かな感性を磨き、表現力を高め想像力を豊かにし、情報活用能力を 向上させる等効果的な読書活動や多様な学習活動を推進するため、全小・中学校に学校司書を巡回 配置する。 これにより、司書教諭及び学校図書館に関する業務補助を専門とするため、学校図書館教育の充 実が図られる。							
内 容	図書館業務の専門的知識を有する学校司書を天草市内小・中学校(35校)に、 2校又は3校 に1人 の割合で巡回配置する。ただし、学校規模により本渡南小、本渡北小、亀川小、本渡中については、 1名を専属で配置している。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	33,640 (一般 33,640)	学校司書配置数	人	目標値	18			
				実績値	18			
					目標値			
					実績値			
						4	4	4
総 合 評 価	○上位施策への貢献 学校教育のレベル向上には、効果的な読書活動が大切である。 ○市関与の必要性 図書館担当教員は校務分掌上設けられているが、担任や教科指導等の業 務があり、図書室の整備充実まで至っていない。よって、専門的立場から、学 校司書の配置による教育効果は大きく、また市単独で実施しているため、市 の関与性は高い。 ○達成状況 図書室の視覚的な環境整備及び蔵書の整備を行うことにより、子供たちの 本への関心が高まっており、目的は十分達成されている。 ○今後の課題 方向性については、毎月の研修会の開催を通じ、学校司書の資質向上及 び学校における読書活動内容のさらなる充実を図りながら継続することとし たい。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	16						
事業名		総合的な学習活動支援事業			担当課係名	学校教育課 教務1係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実		施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		体験から興味関心を高めることにより学習意欲の向上を図ることを目的として、学習指導要領の中 にある「総合的な学習の時間」において、横断的・総合的な課題などについて、天草の自然環境・歴 史・伝統・文化等について、調査・観察・見学・体験などの学習に係る経費の支援を行なう。 また、学習の場を校区外へ広げ、児童が天草の伝統・文化・自然・歴史等とふれあい、理解を深め るなどの体験活動を通して、ふるさとを多面的に捉え、宝島天草を愛し、未来を切り拓く力を育成する とともに体験事業を通して自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力を育むな ど「生きる力」を育成する。							
内 容		市内全小・中学校35校に対し、総合的な学習活動に係る経費を負担する。 対象経費：交通費・保険料・講師謝礼・印刷費・消耗品費等 【経費内訳】 ①報償費 5,000円 (小学校: 0円 中学校: 5,000円) ②需用費 2,354,531円 (小学校: 1,402,411円 中学校: 952,120円) ③役務費 65,340円 (小学校: 17,780円 中学校: 47,560円) ④使用料 1,771,523円 (小学校: 1,527,003円 中学校: 244,520円)							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等		決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
		4,197 (一般 4,197)	実施校	校	目標値	35			
					実績値	35			
						目標値			
実績値									
総合評価		○上位施策への貢献 天草の自然環境・歴史・伝統・文化等について、調査・観察・見学・体験など の学習を行うことにより、児童・生徒の学習意欲の向上に貢献する事業である。 ○市関与の必要性 市立学校の設置者として学習内容の充実を図り、児童生徒の学力向上の ための施策を実施する義務がある。 ○達成状況 各校で自然環境・歴史・伝統・文化等の調査・観察・見学・体験活動(企業・ 工場・施設見学や職業・ふるさとの体験など)を実施し、児童生徒の学習意欲 の向上を図るとともに、天草の伝統・文化への理解を深めることができた。な お、実施にあたり、文化課などが作成する資料を活用し、事業に取り組むこと ができた。 ○今後の課題 各校で学習内容が異なるため予算を一律に配分することは困難であるが、 各学校のニーズに合わせた予算措置が必要である。方向性については、目 的達成のため、積極的に継続することとしたい。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	17					
事業名		小中学校ICT整備事業			担当課係名	学校教育課 教務1係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	社会の情報化が急速に進展し、児童・生徒が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身 につけることの重要性が高まっている。このような中でICT機器を活用した「分かる授業」を実施し、 「確かな学力」の育成に資するために計画的に環境整備を図る。							
内 容	○パソコン教室の整備 パソコン教室のデスクトップパソコンをタブレット端末へ更新 深海小(14台)、久玉小(23台)、本渡東中(41台)、稜南中(41台)へ導入 ○ICT支援員の配置 タブレット端末導入校にICT支援員を配置 深海小、久玉小、河浦小、本渡中、本渡東中、稜南中、河浦中へ配置 ○ICT機器の更新・修繕							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	36,075 (一般 36,075)	パソコン教室整備校	校	目標値	4			
				実績値	4			
		整備台数	台	目標値	115	4	4	4
				実績値	119			
総合評価	○上位施策への貢献 児童生徒が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身につけることの 重要性が高まる中で、ICT機器を活用した「分かる授業」の実施により、「確かな学 力」の育成に貢献している。 ○市関与の必要性 次期学習指導要領の改訂において、更にICT環境の整備が求められており、市 の関与性は高い。 ○達成状況 タブレット端末等の導入及びICT支援員の配置により、授業や教材研究など、教 職員のICT機器の活用能力の向上に寄与するとともに、ICT機器を活用した授業づ くりを行うことで、児童生徒の授業に対する関心や学習理解を高めることができた。 また、今後更にICT環境の整備が求められる状況で教育条件の不均衡が生じること のないよう、タブレット端末の整備期間を7年から4年の計画に見直しを行った。 ○今後の課題 児童生徒のICT機器の活用能力の向上や児童生徒が主体的に学ぶ意欲を引き 出す授業づくりができるよう、教職員のICT機器の操作・活用方法などの研修を検討 する必要がある。 方向性については、文部科学省の学習指導要領等に示される内容に基づき整備 したいと考えており、拡充して取り組みたい。						方向性	拡充

点検評価調書		整理番号	18					
事業名	離島高校生修学費支援事業				担当課係名	教育総務課 総務企画係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	地域を担う人づくり		政策	学校教育の充実		施策計画	学校教育の質的向上
教育目標 基本方針	教育目標	・夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり ・自然や伝統・文化を大切にし、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり		基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	① 通学費・下宿等費補助 ●目的 御所浦地区の中学校を卒業後、高等学校等に在学する生徒その他天草市御所浦町に住所を有し、高等学校等に通学する生徒の保護者の経済的負担を軽減することを目的とする。 ●対象 ・御所浦町に住所を有し、高等学校等に自宅から通学している生徒の保護者 ・御所浦中学校を卒業後、高等学校等に通学するため高等学校等の寮若しくはアパートを利用し、又は下宿若しくは間借りしている生徒の保護者 ② 通学利便性強化事業補助 ●目的 御所浦島及び横浦島から天草高等学校倉岳校に通学する生徒が、朝課外及び部活動に参加する場合、修学環境の向上を図ることを目的とする。 ●対象 天草高等学校倉岳校保護者会							
内 容	① 御所浦地区から高校等へ進学する際の、通学費(定期船定期券代)及び下宿費等を助成する。 ●助成額 通学費(国1／4、県1／2、市1／4) 下宿等費(国1／2、市1／2) ■通学費補助 御所浦町から天草市内の高校へ通学する際の通学費(定期船定期券代)の全額を補助 ・補助対象生徒数 22人 ・事業費 3,436,000円 ■下宿等経費の補助 修学に伴い下宿等を行う場合に月額10,000円を補助(費用が10,000円未満の場合は実費分) ・補助対象生徒数 47人 ・事業費 5,329,200円 ■合計 ・補助対象生徒数 69人 ・事業費 8,765,200円 ② 天草高校倉岳校の校長が事前に定めた行事(朝課外・部活動等)において海上タクシーを利用する場合、料金から通学生徒等1人当たり乗船料200円を差し引いた額を補助する。(県10／10) ■利用日数 66日 利用船舶数 86隻 利用者数 624人 事業費 174,200円							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの				評 価		
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	8,940 国庫(3,523) 県補助(1,892) 一般(3,525)	補助対象高校生数	人	目標値	79			
				実績値	69			
					目標値		4	4
				実績値				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 本市における教育の機会均等の観点から、高等学校等が設置されていない御所浦地区の高校生が、安心して勉学に打ち込める環境を整備することができた。 ○市関与の必要性 離島地区においては教育費負担が重くなっている状況であり、市が関与すべきである。 ○達成状況 申請のあった補助対象者について、補助金の交付を行う事ができたため、事業の目的を達成することが出来た。 ○今後の課題 下宿等経費補助については、御所浦地区以外に居住する保護者との公平性に欠けるとの意見もあり、補助の継続について検討が必要である。						方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	19					
事業名		姉妹都市教育交流事業			担当課係名	教育総務課 総務企画係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	地域を担う人づくり	政策	学校教育の充実	施策計画	国際化・情報化の推進		
教育目標 基本方針	教育目標	・夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり ・自然や伝統・文化を大切にし、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり		基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	・ 本市の姉妹都市であるエンシニタス市(米国)と相互に生徒の派遣・受け入れを実施することにより、異なる文化や外国語を学び、市民生活や学校生活を体験しながら国際交流を深め、幅広い視野と国際感覚を身に付け、21世紀の郷土を担う心身ともに逞しい青少年の育成を図ることを目的とする。 ・ 活動・成果の指標は、下記項目についての実施の有無とする。 ①ホストファミリーとの交流、②小・中・高校生等との交流、③地域住民との交流							
内 容	エンシニタス市から生徒3名・引率者1名を受け入れ、交流事業等を実施した。 ■実施時期 平成28年7月29日(金)～8月5日(金) (8日間) ■事業内容 ①文化交流事業(茶道・華道体験、イルカウォッチング、崎津集落及び五和町御領地区見学他) ②牛深中学校との交流学习事業(書道体験、クイズ大会他) ③ホームステイ6日間(受け入れ家族との交流) 短期間ではあったが、教育交流事業・ホームステイ等をとおして、エンシニタス市訪問団の方々と国際交流を深めることができた。 また、今回は牛深中学校において交流学习事業を行ったが、双方の生徒にとって国際理解を深める貴重な経験となった。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	347 一般(347)	交流項目	項目	目標値	3			
				実績値	3			
				目標値		4	4	4
				実績値				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 異文化体験や国際理解を深めることにより、相互間において大変意義のある事業となり、国際交流の推進を図る事ができた。 ○市関与の必要性 市民(天草市国際交流市民ボランティア等)と行政が一体となった国際交流活動を推進する必要がある。 ○達成状況 牛深中学校生徒との交流学习事業及び市民宅でのホームステイ等をとおして、エンシニタス市訪問団と交流を深めることができ、双方において刺激的・効果的な機会が生まれ、目的を十分達成することができた。 ○今後の課題 姉妹都市交流事業として多くの市民に参加・交流を促していくには、政策企画課と連携して積極的に多文化共生の意識啓発を行っていく必要がある。 また、学校教育課が所管するグローバル人材育成事業との統合を検討する。 なお、姉妹都市交流の中での位置付け、派遣費補助額等について課題があり、今後、検討を行う必要がある。						方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	20				
事業名	学校訪問指導の充実			担当課係名	学校教育課 指導係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	天草市教育委員会の教育目標及び基本方針に基づき、学校教育の大きな課題である社会の変化 に対応できる人材の育成及び児童・生徒の個性の伸長を図り、あわせて本市教育水準の向上に資 するため、市内小・中学校の現状を把握するとともに、学校教育の一層の充実を図るため、総合訪 問、経営訪問、事務局訪問を行う。						
内 容	[総合訪問]・・・小学校 5校、中学校 5校 合計10校 幼稚園 1園 [経営訪問]・・・小学校15校、中学校 8校 合計23校 幼稚園 2園 [事務局訪問]・小学校 2校、中学校 0校 合計 2校						
・全体計画、概要 （平成28年度） ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価		
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	実施校数	校	目標値	35			
			実績値	35			
	実施園数	園	目標値	3	4	4	4
			実績値	3			
総 合 評 価	○上位施策への貢献 「確かな学力」「豊かな心の育成」を育むための各園、学校の取組に対して、園・ 学校現場を訪問し、直接的に指導を行うことは、指導の充実を図るためには必要不 可欠である。 ○市関与の必要性 本市の園児、児童生徒に対して、「確かな学力」「豊かな心」「健康な心身」の育成 を図ることは、本市の責務である。 ○達成状況 本年度も全ての小・中学校及び幼稚園訪問を実施した。教育委員会と学校による 事前の打ち合わせにより、それぞれの学校(園)の課題を把握し、課題解決に向け 適切な指導助言を行うことができた。特に、本市の重要課題でもある確かな学力の 定着に向け、授業参観や分科会指導を通して、一人一人の教職員に対し、学習規 律の徹底や指導法の工夫改善に向けた具体的な指導が行えた。多くの学校では、 児童生徒が生き生きと学習する姿や、自分の活動に没頭する姿など、望ましい学習 習慣定着の状況が確認できた。 ○今後の課題 今後、新学習指導要領ではキーワードとなる、「主体的、対話的で深い学び」の実 現に向けて、授業の在り方を見直し、教師一人ひとりが授業改善に努めていく必要 がある。これまで経営訪問では、半日訪問で、学校経営部会と諸表簿点検を中心 に行ってきたが、29年度からは学校経営部会と授業参観に重点をおく訪問へと見直 しを図りたい。よって、方向性としては、見直して継続としたい。					方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	21					
事業名	市指定教育研究推進校補助金				担当課係名	学校教育課 指導係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	学校や地域の教育的な課題と関係づけた教科等や特別活動の実践的な研究を通して、児童・生徒 の「考える力」「表現する力」「資料を活用する力」「自ら追究する力」の育成を図るとともに、「能動的な 学習のための授業展開の工夫」などについて、その成果を普及することにより、本市教育の充実、教 育向上に資するため、研究校を指定し天草市独自の事業を実施する。							
内 容	研究推進校を指定し独自の事業を実施 市指定校 5校(小学校2校、中学校2校、小中合同開催1校) ○「学力充実」研究推進校 本渡南小： 分かりやすい授業づくりを通した「生きる力」の育成のための実践的研究 本渡北小： 「自分の考えをもち 伝え合い 高め合う北っ子」を目指して ～思いや考えをつなぐ授業づくり～ 牛深中： 小中連携の充実を図った学力向上の研究(2年次) ～「わかる」「できる」喜びを実感できる魅力ある授業づくり～ 牛深東中： 学習習慣を身につけ、ともに学び合う生徒の育成 ～生徒が「わかる」「できる」授業の工夫～ ○「小中連携」研究推進校 五和小・五和中： 小中連携による確かな学力を育むための教育実践 ～いえる・つなぐ・わかりあう五和っこをめざして～							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	1,000 (一般 1,000)	指定校数	校	目標値	5			
				実績値	5			
				目標値		4	4	4
			実績値					
総 合 評 価	○上位施策への貢献 指定校の研究への取組が、研究発表会等を通して他の小中学校へ普及することにより、市全体の教育力の向上につながり、児童生徒の生きる力の基盤となる「確かな学力」の育成に貢献している。 ○市関与の必要性 市全体の教育の質の向上のためには、研究指定校による研究発表会(授業公開等)の実施は大変有効な手段である。今後も多くの学校が指定校を経験し、また研究発表会に参加し、教師一人一人の指導力向上と児童生徒の学力向上に寄与できればと考えている。そのためにも、市が積極的に関与しなければならないと考える。 ○達成状況 児童・生徒の「確かな学力」の育成と教職員の教育指導力の向上は、本市にとって重要課題である。研究指定の希望も多くの学校から上がっており、指定校の校内研修充実に加えて、天草市の教職員に対しても公開授業を実施し、各学校の教育的な課題の解消に役立っている。 ○今後の課題 研究推進校の指定の在り方については、同じ学校が複数年連続して指定を受けることも多く、指定校が偏らないように検討することが昨年度までの評価で指摘されている。しかしながら、天草市内の小・中学校では学校規模の差が大きい。複数教師から構成された教科部会や学年部会が実施可能な大規模校には、研究推進校のリーダー校的な役割を担っていることも大きな意味がある。方向性は、指定校5校の中で、連続指定校と新規校のバランスを考慮しながら、見直して継続したい。						方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	22					
事業名	地産地消の推進				担当課係名	学校給食課		
第1次総合計画 施策体系区分	施策の柱	地域を担う人づくり	施策	学校教育のレベル向上	施策の内容	学校教育の質的向上		
教育目標 基本方針	教育目標	・夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり ・自然や伝統・文化を大切にし、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	安心・安全でおいしい給食の提供に努めるとともに地産地消を推進する。							
内 容	天草産・熊本県産の旬の野菜等生産物の購入により、感謝の心を育てたり、地域資源でもある農水産物に興味をもたせ、生産者等の顔の見える給食づくりを目指す。							
・全体計画、概要 (平成27年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施策 (目標)への貢献	市関与の 必要性	達成状況	
		熊本県産農林水産物 (品目の割合) 熊本県産 天草産	%	目標値				55.00
				実績値				52.93 25.03
		天草産農林水産物 (金額の割合)	%	目標値	15.00	4	4	3
				実績値	14.80			
総 合 評 価	○上位施策への貢献 地元農林水産物の消費拡大に寄与している。 ○市関与への必要性 地元農林水産物を使用した食育を通し、地元産への関心を高めることで郷土への思いを持たせると同時に農林水産物の生産性を高めるために関与の必要がある。 ○達成状況 栄養教諭や学校栄養職員と小売業者、生産者との連携を深め、水産振興課と連携して、水産物の提供を行うことができたが、天候不良により地元農産物が9月から10月にかけてほとんどなかったため、目標が達成できなかった。 ○今後の課題 天草産の活用については、数量・価格などの課題はあるが、地元JAや生産者及び農林・水産振興課との連携により、地元特産品の活用を図るとともに、地域で栽培しているボタンボウフウなどについても積極的に活用していく。 方向性については、献立の内容を充実して継続することとしたい。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	23				
事業名	学校給食施設整備事業			担当課係名	学校給食課		
第1次総合計画 施策体系区分	施策の柱	地域を担う人づくり	施策	学校教育のレベル向上	施策の内容	学校教育の質的向上	
教育目標 基本方針	教育目標	・夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり ・自然や伝統・文化を大切にし、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	天草市学校給食基本計画に基づき、安心安全な給食を提供するために、ボイラー設備を増設して安定した給食の提供を実現する。						
内 容	ボイラー設備の増設工事 屋外 電気設備工事 屋内 給水設備工事、給湯設備工事 事業期間 平成28年度 事業費 4,795,200円						
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価		
	平成28年度	指標名	単位	平成28年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	4,795,200 (一般)	対象事業数	事業	目標値			
				実績値	1		
					目標値		4
			実績値				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 天草市学校給食基本計画に基き、学校給食業務の効率化を進めている。 ○市関与への必要性 施設の老朽化、及び衛生基準への適合化等の課題に対応するためには積極的かつ早急な関与の必要性がある。 ○達成状況 ・牛深学校給食センターには1基のボイラーしかなくフル稼働しているため、故障することが多い。そのため、ボイラーを増設して安定した稼働ができるようにした。 ○今後の課題 ・天草市学校給食基本計画に基づき、整備・改修が必要な給食センターについても順次計画を進めるため、整備していく必要がある。 ・方向性については、計画の見直しもしながら継続することとしたい。					方向性	継続

点検評価調書		整理番号	24																																			
事業名	小・中学校統合推進事業					担当課係名	教育総務課 施設係																															
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり			政策	学校教育の充実		施策計画	教育を支える環境づくりの推進																													
教育目標 基本方針	教育目標	・夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり ・自然や伝統・文化を大切にし、郷土「日本の宝島天草」を愛する人づくり			基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子どもたちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身ともに健康な日本人の育成																																
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	天草市学校規模適正化(学校統廃合)推進計画に基づき、複式学級の解消と学校規模の適正化により、活力ある児童・生徒の育成を目指す。 ○小学校 小学校42校(分校を含む)を17校にする。 ○中学校 中学校15校を13校にする。																																					
	○学校数の年度別推移 単位:校																																					
	<table><tr><td>年 度</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>小学校</td><td>42</td><td>41</td><td>35</td><td>29</td><td>22</td><td>22</td><td>22</td><td>21</td><td>17</td></tr><tr><td>中学校</td><td>15</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr></table>									年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	小学校	42	41	35	29	22	22	22	21	17	中学校	15	15	13	13	13	13	13	13
年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30																													
小学校	42	41	35	29	22	22	22	21	17																													
中学校	15	15	13	13	13	13	13	13	13																													
内 容	1 小学校 (1)深海小・久玉小統合決定に伴うの学校統合準備委員会等を開催して、統合に向けての協議を行った。 ・深海・久玉地区学校統合事前協議等 3回 ・深海・久玉小学校統合準備委員会 5回 ・深海小学校、久玉小学校閉校式 (2)志柿・下浦・瀬戸地区学校統合推進協議会を1回開催して、事業計画等の説明及び協議を行った。 (3)有明地区学校統合推進協議会を1回開催して、事業計画等の説明及び協議を行った。また、校章、校歌、規約等の協議を行う統合準備委員会を2回開催し、統合に向けての協議を行った。 2 総事業費 【主として深海・久玉小学校統合に関する校歌・校章謝金、校旗作成費、移転作業委託料等に使用】 報償費 130千円、消耗品費 123千円、手数料 518千円、委託料 1,019千円、 使用料及び賃借料 92千円、備品購入費 854千円 計 2,736千円																																					
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの					評 価																															
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度末 最終年度目標値		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況																														
	2,736 (一般 2,736)	小学校数	校	目標値	22																																	
			校	実績値	22																																	
		中学校数	校	目標値	17																																	
			校	目標値	13																																	
			校	実績値	13																																	
校		目標値	13																																			
総 合 評 価	○上位施策への貢献 学校を統合することにより、適正な学校規模となり、子どもたちがより良い教育環境の中で効果的な教育が受けられるようになった。 ○市関与の必要性 学校の設置及びより良い教育環境の整備は市の責務である。 ○達成状況 学校規模適正化推進計画どおり、事業を実施することができた。 ○今後の課題 廃校施設及び跡地については、庁内組織である公有財産利活用検討委員会に諮り、利活用方法について検討を行う必要がある。							方向性	継続																													

点検評価調査	整理番号	25
--------	------	----

事業名	成人式				担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実		施策計画	生涯学習の推進		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	② 生きる力の基盤となる「確かな学力」を育み、子ども たちの創造性を培い、自主及び自律の精神を養い、郷 土「日本の宝島天草」を愛し国際社会に生きる心身とも に健康な日本人の育成					
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	人生の節目を迎えた新成人が大人としての生き方を考え、決意する場、友人と再会しその喜びに浸 るとともに、今後の生き方を語り合い励ましあう場、家族が子ども・孫の成長を実感し新成人と共に喜 びを分かち合うとともに、新成人が家族への感謝を感じる場とすることを目的とする。								
内 容	○10地区で開催 8月16日 牛深、1月3日 本渡、有明、倉岳、栖本、天草、河浦、1月4日 御所浦、 新和、五和 ○対象者数 926人 参加者数 783人(参加率 84.6%) ○式典の実施 アトラクションとして各地区の郷土芸能披露や成人者自身が成人としての決意を 発表。 ○終了後記念撮影をして、天草市の記念品として贈呈。								
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価				
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
	854 (一般 854)	参加率	%	目標値	85.0				
				実績値	84.6				
					目標値		4	4	4
					実績値				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 郷土を愛する青少年の育成に寄与している。 ○市関与の必要性 国民の祝日に関する法律の趣旨「おとなになったことを自覚し、みずから生 き抜こうとする青年を祝いほめます」によるもの。 ○達成状況 地域の来賓や保護者に見守られながら、自らが成人となることを実感する とともに社会人としての責任と義務を自覚する機会となっている。また、新成 人の出席率も84.6%と非常に 高い。 ○今後の課題 今後新成人の数は著しく減少する見込みであり、出席率を保ちながら、新 成人や保護者 、地域にとって魅力ある成人式の内容について検討を続ける。また、当面は、 10地区ごとの開催を継続するが、今後の新成人数の減少と地域の希望等を 鑑みながら、適切な開催の在り方についても検討を続ける。						方向性	継続	

点検評価調査		整理番号	26						
事業名		移動図書館事業			担当課係名	生涯学習課 中央図書館庶務係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実		施策計画	生涯学習の推進	
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、 文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学 習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習 社会の形成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		図書館のない地域、図書館から遠い地域に住む市民のため、移動図書館車で地域を巡回し、図書 館サービスを提供することで、市民の読書活動を推進する。 また、小学校・幼稚園・児童館等の配本場所に定期的に巡回することで、学校図書館に所蔵してい ない図書と出会う機会ができ、子どもの読書活動の推進につながる。							
内 容		○移動図書館車3台で天草全域に実施している。 ①中央図書館から本渡・新和・有明・栖本・倉岳地区へ51力所実施(平成25年度購入) ②河浦図書館から河浦・牛深・天草地区へ55力所実施(平成22年度経済対策で購入) ③御所浦図書館から横浦島を含む御所浦全地域35力所実施(平成23年度天草町から移管) ○合計訪問力所数139力所 利用冊数105,794冊 利用者数11,524人							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等			指標:成果、活動の対象となるもの				評 価		
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
		2,857 (一般 2,857)	利用冊数	冊	目標値	97,000			
					実績値	105,794			
			利用者数	人	目標値	11,700	4	4	4
					実績値	11,524			
総 合 評 価		○上位施策への貢献 図書館から遠距離にある地域に居住する市民へも読書の機会を提供する ことで、生涯 学習の推進に寄与している。 ○市関与の必要性 生涯学習推進の基盤である読書活動が積極的に行われるように支援す る必要がある。 ○達成状況 図書の利用冊数、利用者数 ともに前年度を上回った。しかしながら、利用 者数は目標値に達しなかった。 ○今後の課題 図書館から遠距離にある地域に居住する市民への利便性と利用者拡大の ため、移動図書館での訪問箇所を見直し、内容を充実して継続していく必要 がある。						方向性	継続

点検評価調書		整理番号	27						
事業名		読書活動推進事業			担当課係名	生涯学習課 中央図書館庶務係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実		施策計画	生涯学習の推進		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、 文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学 習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習社 会の形成					
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	市民に読書の楽しさを理解してもらい、意欲的に読書に親しんでもらう機会を提供することで、市民 の読書活動の推進を図る。また、読み聞かせボランティアの研修会等を実施することにより、図書館と の連携を強化し、読み聞かせ活動を家庭や地域に広げることを目的とする。								
内 容	○読書フェスティバル：東京海洋大学名誉博士のさかなクン講演会を行い1000人の参加があった。 ○ボランティア交流会：読み聞かせボランティアの交流とスキルアップを目的に開催し80人の参加が あった。 ○童話発表大会：童話、民話などを児童が発表（発表時間は、1～2年生 1人 5分、3～6年生 1人 7分）する大会で、児童35人が出場し、天草地方大会には12人が出場した。 ○アマクサ・ライブラリー・カフェ：さまざまなジャンルのゲストを招へいし、年間5回開催した。98人の 参加があった。 ○古文書学習会：天草の古文書を教材に学習会を開催し、天草の歴史研究家の育成に努めている。 年間76人 の参加があった。（毎月第3土曜日開催） ○巡回講座：年間計画に基づき各学校等への読み聞かせ活動により、本に親しむ機会を提供する。 26回、2,231 人への読み聞かせを行った。								
・全体計画、概要 （平成28年度） ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価				
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 （目標）への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
	870 （一般 870）	図書館利用冊数	冊	目標値	407,000				
				実績値	413,722				
		読書フェスティバル来場者数	人	目標値	250	4	4	4	
				実績値	1,000				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 本に親しみ、創造する機会を与えることにより読書意欲の推進を図り、「生きる力」の 基礎を育むことに寄与した。 ○市関与の必要性 読書活動が積極的に行われるように市民が本に触れる機会を多く提供する必要がある。 ○達成状況 読書フェスティバルは講師の知名度もあり、昨年を大幅に超える参加があつた。また、童話発表天草地方大会では天草市の2名が最優秀賞を受賞し、例 年熊本県大会に出場の予定であったが、熊本地震により、熊本県童話発表大会が中止されたため、代表2名は特別表彰を受けた。 ○今後の課題 テレビやインターネット等の普及により子ども達の活字離れが進んでいるた め、今後も家庭、地域、学校及び行政が連携協力して、読書活動を推進してい く必要がある。							方向性	継続

点検評価調書		整理番号	28					
事業名		生涯学習推進事業			担当課係名	生涯学習課 公民館係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実	施策計画	生涯学習の推進		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、 文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学 習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習 社会の形成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	市民に多様な学習機会を提供することで市民の学習意欲が高まり、学んだ成果を地域社会に活か すことができるようになる。							
内 容	○「全体講座」と「出前講座」の開催。 ・「全体講座」：市民全体に学習の機会を提供するため地区公民館単位で行う講座 具体的な学習例として、天草市が推進する事業に対する事業に対し、理解をいただく講座 （世界遺産登録推進を目指した歴史・郷土講座や第1次天草市地域まちづくり計画を推進の ための地域づくり講座）や、防災・防犯講座、教養講座等 ・「出前講座」：学習の機会を得にくい市民に対して地区コミュニティセンター等に講師等を派遣 する講座 具体的な学習例として、地域のニーズなどに応じた健康(体操)講座、パソコン教室など連続で 行う教養講座を開催。また、生活に密接した交通安全講座、消費者生活講座等を開催するもの。 ○平成28年度実績（講座開催数 参加者延人数） 全体講座54回 3,217人、出前講座221回 6,289人、計275回 9,506人							
・全体計画、概要 （平成28年度） ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	1,995 (一般 1,995)	講座開催数	講座	目標値	330			
				実績値	275			
		参加者延人数	人	目標値	12,000	4	4	3
				実績値	9,506			
総合評価	○上位施策への貢献 学習の場の提供は主体的な生涯学習活動への動機付けとなっている。 ○市関与の必要性 講座等の開催は市民の生涯を通した学習につながるものであり、生涯学習社会の構築 のために市で取り組んでいくべきである。 ○達成状況 地区振興会や各種団体等との連携により、地域の特性や要望に応じた講座の開催を行 い、市民に多様な学習の機会を提供できた。また、受講後、自主学級に2団体、結成に至 るなど自主的な活動につながった。しかしながら、熊本地震の影響により、講座開設数、参 加者延人数ともに目標に達しなかった。 ○今後の課題 学習に特化した公民館として、講座、講演会を通じて、市民に学習の機会を提供し、5年 目、参加者の年齢層が比較的高齢者が多いため、開催方法やターゲットを定め、様々な年 齢層が参加できる取組を行うとともに、市民が学んだ成果を実践できるよう、専門的な学習 を提供する取組を行う必要がある。 また、市民が公民館講座についての情報を得やすいように、情報の発信方法についても 検討をしていく必要がある。						方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	29						
事業名		勤労青少年ホーム事業			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係			
第2次総合計画 施策体系区分		経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実		施策計画	生涯学習の推進	
教育目標 基本方針		教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	③ 市民一人一人が生涯を通じていつでも自由に学び、 文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学 習や活動の成果を社会に生かすことができる生涯学習 社会の形成				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的		勤労青少年に対して、各種の相談に応じ、必要な指導を行ない、レクリエーション、クラブ活動その他勤労の余暇に行なわれる活動のための便宜を供与する等勤労青少年の福祉に関する事業を総合的に行なうことを目的とする。							
内 容		○天草市勤労青少年ホーム 教養講座、スキルアップ講座、特別講座の開催 ①料理講座 ②ヨガ講座 ③アロマ講座 ④ヨガ講座（公民館と共催） ⑤ユカタ着付け講座 ⑥着物着付け講座 ⑦アーユルヴェーダ講座 ⑧ペン字講座 ⑨出前講座 受講生延べ876人 ○オープン講座 ホームの周知及び会員拡充のために、年齢に関係なくだれでも参加できるオープン講座として、 12月10日に本渡地区公民館といっしょに合同文化祭を開催 参加者数100人 （内容）体験講座（⑨ヨガ、⑩エアロビック）、バザー（食事・物品）							
・全体計画、概要 （平成28年度） ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等		決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
		平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 （目標）への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
		528 （一般 528）	開設講座数	講座	目標値	14			
					実績値	10			
			受講生数	人	目標値	900	4	4	3
					実績値	978			
総 合 評 価		○上位施策への貢献 勤労青少年が文化・スポーツに親しむことを通じて生きがいを持ち、学習や活動の成果を社会に生かすことができる。 ○市関与の必要性 勤労青少年が学習や活動を通じ、その成果を社会に活かすための場の提供は市として必要である。 ○達成状況 対象年齢を35歳未満から45歳未満に引き上げられたことや公民館と連携した講座を開設したことで、受講生数は増加したが、開設講座数は目標には達していない。 ○今後の課題 講座内容の見直しや公民館と連携した講座の開設により、更に、広範囲での市民のホーム利用を推進して行く必要がある。 また、法律の改正により、勤労青少年ホームの位置づけがなくなったが、青少年への場の提供など、支援は必要であり、公民館活動と合わせ見直しを行う必要がある。						方向性	見直し て継続

点検評価調書		整理番号	30					
事業名	コミュニティ・スクールの推進に向けた取組み			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、 連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教 育行政の推進				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することを通じて、地域に開かれ た信頼される学校づくりを進める。							
内 容	本町小学校及び五和小・中学校に学校運営協議会を設置し、各支援コミュニティの組織づくりと効果 的な運用、コミュニティ・スクールへの理解を高めるための啓発活動に取り組む。学校と保護者や地 域が、共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子ども達の豊かな成 長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める。							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	405 (一般 405)	設置校数	校	目標値	3			
				実績値	3			
				目標値		4	4	4
				実績値				
総 合 評 価	○上位政策への貢献 学校、家庭、地域社会がそれぞれの立場から連携を図りながら、地域とと もにある学校づくりの推進に向けた取組として貢献している。 ○市関与の必要性 天草市学校運営協議会規則に基づき、当該協議会の運営状況についての 確かつ適切な指導、助言を行うために、市として関与し、把握に努める必要 性は高い。 ○達成状況 平成28年度は、本町小学校、五和小・中学校の3校において実施し、地域 の教育力を生かした特色ある教育活動が行われた。 ○今後の課題 3校以外の学校では、予算措置を伴わない熊本版コミュニティー・スクール を推進する動きが進められており、予算措置を伴う本事業の在り方について は検討する必要がある。方向性については見直して検討していきたい。						方向性	見直して継続

点検評価調書		整理番号	31				
事業名	学校の自己評価			担当課係名	学校教育課 指導係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、 連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教 育行政の推進			
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	学校が、その教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運 営の改善を図ること、及び評価結果等を広く保護者等に公表していくことにより、児童生徒がより良い 教育活動等を楽しめるよう学校運営の改善と発展を目指す取組を指導し、援助を行う。						
内 容	・学校の自己評価等について市教委への報告様式を原則統一 ①学校経営目標等 ②具体的計画 ③今年度の達成基準 ④自己評価(中間) ⑤自己評価(最終) ⑥分析・改善方策 ⑦学校関係者評価 評価は3段階(A:目標を十分達成した B:おおむね目標どおり C:目標達成が不十分) ・学校の自己評価を、保護者・地域に対して公表することを通して、開かれた学校づくりへを一層推進 する。 ・効果的な学校評価が実施できるよう、評価手法等の調査や優れた取組の普及						
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標:成果、活動の対象となるもの			評 価		
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施 策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
		実施校数	校	目標値 35 実績値 35			
		実施園数	園	目標値 3 実績値 3	4	4	4
総 合 評 価	○上位施策への貢献 学校が自校の学校運営について適切に自己評価を行い、保護者地域住民 に周知することは、学校改革を進め、児童生徒にとってよりよい教育環境を提 供するための基盤となるものであり、教育行政の推進に寄与している。 ○市関与の必要性 学校教育に対する保護者や地域の期待は高く、それに応えるべく適切な学 校評価に基づき本市の学校教育をより充実させることは本市の責務であり、 市が関与する必要がある。 ○達成状況 学校評価の保護者への周知については、校長が作成する学校だよりにお いて、市内全ての学校・園が報告を行った。併せて学校評議員等による学校 関係者評価も行っており、その周知についても保護者へ積極的に紹介してい る学校もあるなど、地域に開かれた学校運営が一層推進されてきた。 ○今後の課題 自己評価については数値目標が取り入れられるようになり充実してきた。 より確かな評価とするためには、評価規準を明確にし、具体的に数値で判断 できる目標の設定、文章表記が大切であると考え。方向性は継続とした い。					方向性	継続

点検評価調書		整理番号	32					
事業名	社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会				担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実		施策計画	生涯学習の推進	
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、 連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教育 行政の推進				
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	社会を明るくする運動は、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それ ぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動であり、 青少年の非行防止を目的とする。 また、教育関係者や保護者をはじめ全ての市民の間で本市の教育の現状について理解を深めると ともに、これからの教育のあり方や方向性を見定める機会とし、学校教育や社会教育をはじめとする すべての分野の教育力の活性化を推進することを目的とする。							
内 容	○ポスター、横断幕、のぼり旗等の掲示や設置による広報活動やチラシ、啓発用品の配布による 街頭啓発活動の実施。 ○高校生と一般市民からの標語及び小中学校児童生徒からの作文を募集し、推進大会で表彰や 作文の発表 ○社会を明るくする運動・教育力活性化推進大会の開催 (大会の主な内容) ・天草高等学校倉岳校生徒による司会進行 ・オープニング「しんわ楊貴妃太鼓」 ・事例発表「九州初！ 子ども民生委員」天草市立本渡東小学校 ・記念講演及び席上揮毫(書の実演) 演題「天使がくれた贈り物」 講師 金澤 泰子さん(書家、翔子さんの母)、金澤 翔子さん(書家)							
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの				評 価		
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
	社会を明るくする 運動・教育力活 性化推進大会	社会を明るくする運動 標語・作文応募数	件	目標値	1,000			
				実績値	1,193			
	1,104 (一般 1,104)	社会を明るくする運動・ 教育力活性化推進大会 への参加者	人	目標値	450	4	4	4
実績値				560				
総 合 評 価	○上位施策への貢献 天草市における教育の取組みを認知し、学校・家庭・地域における教育の必要性及び 各々が連携することの重要性を理解し、教育力推進の意識高揚を図ることができた。 ○市関与の必要性 社会を明るくする運動は法務省主唱の全国的な運動であり、青少年健全育成及び安心・ 安全な地域づくりのため、市として関与する必要がある。また、教育力活性化推進大会に についても、市民や教育関係者教育力を高める契機に繋げるために関与する必要がある。 ○達成状況 社会を明るくする運動については、作文や標語の募集を行い、保護司会と連携して啓発 活動に取り組むことができた。また、教育力活性化推進大会は、参加した市民や教育関係 者が、それぞれの活動の以後の参考となり、教育意欲の向上につながった。 ○今後の課題 参加した市民や教育関係者にとって、より今後の活動の参考になるような内容を企画し ながら継続する。 また、市民が参加しやすいよう他のイベント(青少年健全育成フォーラムなど)との調整を 図りながら、開催方法の見直しを行い、平成29年度は、社会を明るくする運動と教育力活 性化を分け、“社会を明るくする運動”青少年健全育成大会として開催することとした。						方向性	見直し て継続

点検評価調書		整理番号	33																							
事業名	放課後子ども教室			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係																					
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実	施策計画	生涯学習の推進																				
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、 連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教 育行政の推進																						
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	放課後や週末等に学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を 設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続 的に提供することで、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地 域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進す ることを目的とする。																									
内 容	地域のコーディネーターが中心となって住民と学校が連携して、放課後等の子どもたちの 居場所を確保するとともに遊びや学習機会を提供する。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>児童登録者数</td> <td>実施日数</td> <td>述べ参加者数</td> <td>コーディネーター等数</td> </tr> <tr> <td>本渡東小学校</td> <td>23人</td> <td>63日</td> <td>1393人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>島子小学校</td> <td>15人</td> <td>104日</td> <td>580人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>38人</td> <td>167日</td> <td>1973人</td> <td>20人</td> </tr> </table>							児童登録者数	実施日数	述べ参加者数	コーディネーター等数	本渡東小学校	23人	63日	1393人	12人	島子小学校	15人	104日	580人	8人	合計	38人	167日	1973人	20人
	児童登録者数	実施日数	述べ参加者数	コーディネーター等数																						
本渡東小学校	23人	63日	1393人	12人																						
島子小学校	15人	104日	580人	8人																						
合計	38人	167日	1973人	20人																						
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価																					
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況																			
	669 (県支出金 312) (一般 357)	実施校数	校	目標値				2																		
				実績値	2																					
		参加者数	人	目標値	1,591	4	4	4																		
実績値	1,973																									
総 合 評 価	○上位施策への貢献 学校・家庭・地域社会で連携を図り、子どもの居場所をつくることできた。 ○市関与の必要性 社会の変化に伴い、家庭教育力・地域教育力の低下が懸念されるため、 学習機会の提供等の支援を行っていく必要がある。 ○達成状況 2校については、継続して実施でき、放課後等の子どもの居場所を確保す るとともに、遊びや学習機会を提供することができた。 ○今後の課題 「放課後児童クラブ」の配置状況や進捗状況を見ながら見直しを含め検討 する必要がある。 また、部活動の社会体育への移行や小学校の統合などによる放課後活 動の変化への配慮も必要となる。					方向性	見直し て継続																			

点検評価調書		整理番号	34																									
事業名	青少年健全育成事業			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係																							
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	人が輝く活力あるまちづくり	政策	生涯学習の充実	施策計画	生涯学習の推進																						
教育目標 基本方針	教育目標	夢や希望を持ち、自ら 学び、心豊かに生きる 人づくり	基本方針	④ 学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を果たし、 連携を図ることができる、地域社会の特性を踏まえた教 育行政の推進																								
目 的 ・事業の目的 ・補助の目的	青少年同士の交流を促し、自然とのふれあいなどの豊かな体験の場を創出すると共に、ボランティア等の社会参加型活動への参加を支援する。 地域の伝統的事業を体験して歴史を学ぶことで、ふるさとの魅力を再発見し、郷土を愛する心を醸成できる。また、地元の青年団やお年寄りと異世代交流を行うことにより社会性や自立性が身につく等の大きな成果がある。																											
内 容	○青少年育成事業補助金 青少年を対象とした各種体験活動及び交流活動を行う事業に対し、補助金を交付する。(総事業費が10万円以上の事業に対して、2分の1を補助。) 【地区限定事業】補助対象経費に2分の1を乗じた額とし、150,000円を上限とする。 【市内全域事業】補助対象経費に2分の1を乗じた額とし、200,000円を上限とする。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>主催</th> <th>参加者数 (市内の青少年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栖本町寺子屋体験学習</td> <td>栖本地区振興会</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>2016 秋冬あまぐさ自然学校</td> <td>竜洞山みどりの村運営協議会</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>御所浦小学校・産山小学校海山交流活動</td> <td>御所浦町・産山村海山交流活動実行委員会</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>豊田市立矢並小学校との交流体験活動</td> <td>天草市立本町小学校PTA</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>FIVE RESPECTS～あまぐさ浪漫紀行～</td> <td>一般社団法人天草本渡青年会議所</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>天草高等学校韓国土坪(トピョン)高等学校親善交流事業</td> <td>熊本県立天草高等学校校友会</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>							事業名	主催	参加者数 (市内の青少年)	栖本町寺子屋体験学習	栖本地区振興会	18	2016 秋冬あまぐさ自然学校	竜洞山みどりの村運営協議会	11	御所浦小学校・産山小学校海山交流活動	御所浦町・産山村海山交流活動実行委員会	40	豊田市立矢並小学校との交流体験活動	天草市立本町小学校PTA	27	FIVE RESPECTS～あまぐさ浪漫紀行～	一般社団法人天草本渡青年会議所	27	天草高等学校韓国土坪(トピョン)高等学校親善交流事業	熊本県立天草高等学校校友会	9
事業名	主催	参加者数 (市内の青少年)																										
栖本町寺子屋体験学習	栖本地区振興会	18																										
2016 秋冬あまぐさ自然学校	竜洞山みどりの村運営協議会	11																										
御所浦小学校・産山小学校海山交流活動	御所浦町・産山村海山交流活動実行委員会	40																										
豊田市立矢並小学校との交流体験活動	天草市立本町小学校PTA	27																										
FIVE RESPECTS～あまぐさ浪漫紀行～	一般社団法人天草本渡青年会議所	27																										
天草高等学校韓国土坪(トピョン)高等学校親善交流事業	熊本県立天草高等学校校友会	9																										
・全体計画、概要 (平成28年度) ・実績、活動状況 ・補助対象団体の 活動状況等	決算額	指標: 成果、活動の対象となるもの			評 価																							
	平成28年度(千円)	指標名	単位	平成28年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況																					
	873 (一般 873)	青少年健全育成 補助金申請団体	団体	目標値				7																				
				実績値	6																							
		参加者数	人	目標値	320	4	4	3																				
実績値				132																								
総合評価	○上位施策への貢献 子供たちに様々な体験活動の機会を提供することで、青少年の健全育成に大きく寄与している。 ○市関与の必要性 青少年の健やかな成長を支えることは社会全体の責任であり、行政、家庭、地域、学校等が相互に協力・補完しながら取り組む必要がある。 市民団体や地域団体による創意工夫を凝らした青少年健全育成活動を推進するためには、市としても支援を行っていく必要がある。 ○達成状況 平成28年度から、市主催で行っていた事業を地域へ移行(実施主体の見直し)するとともに、補助金要項の見直し(対象、限度額の見直し)を行った。 昨年と同じ6団体から補助金の申請があり、地域の伝統的事業の体験や歴史学習によりふるさとのよさを再発見することで、ふるさとを愛する子どもたちの育成につながった。また、日常生活では体験することの少ない自然体験や他地域の子どもたちとの異年齢交流、外国文化との交流を行うことにより、感謝の気持ちや思いやりの大切さを感じたり、ふるさとの素晴らしさを知るなど、青少年の健全育成に大きな成果があった。 しかしながら、補助金申請団体数、参加者数ともに目標には達しなかった。 ○今後の課題 市民団体等を主体とした青少年育成活動をさらに活性化するために、補助制度の周知に力を入れながら、補助事業を継続する。						方向性	継続																				